

V.1. 教員の教育研究・社会貢献活動

(2018年4月1日～2019年3月31日)

(2) 言語社会専攻

【アジア I 講座】

〔中国語〕

青野 繁治 (AONO Shigeharu) 教授

http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~s_aono/

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論、アジア・アフリカ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉アジアの社会と文化を知る

〈学部教育担当科目〉中国語 3、中国語 15、中国語VIIa,b 中国語Xb、中国文学講義 a、中国文学特別演習 ab

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉中国現代小説論、

〈所属学会〉日本中国学会、日本現代中国学会、中国文芸研究会

〔その他の活動〕

〈管理運営〉言語文化研究科・外国語学部ネットワーク委員長、外国語学部ネットワーク管理者

〈学会活動〉言語社会学会 EXORIENTE 編集委員長、中国文芸研究会事務局員・ネットワーク管理担当、「野草」編集委員

〈社会貢献活動〉大阪大学生協理事、咲耶会幹事

古川 裕 (FURUKAWA Yutaka) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉広域言語実践論 I AB、広域対照言語論特別研究 AB、アジア・アフリカ言語社会研究序説。

〈共通教育担当科目〉中国語（中級）

〈学部教育担当科目〉中国語 1・2、中国語 XI、中国語学特別演習、中国語学講義、教科教育法（中国語）。

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉現代中国語の認知言語学的研究、日本語話者に対する中国語教育に関する研究。

〈所属学会〉世界漢語教学学会、日本中国語学会、中国語教育学会、日本中国学会、国際中国語学学会、亜太地区国際漢語教学学会。

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・「日本学生漢字知識对漢語教学的“功”和“罪”」、『漢字文化圈漢語教学與研究』、2018年12月、越南河内国家大学出版社。
- ・「漢語“对举形式”的語法特点及其教学对策」、『漢語語体語法新探』、2019年2月、上海中西書局。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・现代汉语的表述特点，浙江工业大学日语系讲座，2018年5月15日
- ・现代汉语对举形式的表述特点及其教学对策，杭州师范大学外国语学院讲座，2018年5月16日。
- ・现代汉语教学语法：感性教学，上海外国语大学国际交流学院，2018年6月6日。
- ・跟日语的对比看汉语的表述特点，西安外国语大学日文学院讲座，2018年6月19日。
- ・日语母语学习者的语法偏误分析及其教学对策，西安外国语大学汉学院讲座，2018年6月20日。
- ・挑战中文电影的日文字幕翻译！，西安外国语大学日文学院讲座，2018年6月21日。
- ・从汉日语言对比看汉语的表述特点第一届跨学科语言研究高层论坛主题演讲，北方工业大学，2018年6月23日
- ・基于认知特点的汉语语法感性教学法 CLTFA#24, Keynote Speech, Camberra, 2018年7月8日。
- ・日语母语学习者的汉语语法错误分析及其教学对策，樱美林大学孔子学院，2018年7月14日。
- ・文化与旅游在汉语言推广中的作用，首届全球孔子学院山东文化旅游推广峰会，曲阜香格里拉酒店，2018年8月14日。
- ・关于日本大学高考中文考试的思考，2018 维多利亚汉语教师大会，主题演讲，Camberwell Grammar School, Melborren, 2018年9月7日。
- ・现代汉语对举形式的表述特点及汉日对比研究，大连工业大学外国语学院讲演，2018年9月13日。
- ・汉语语法感性教学法初探；日语母语者的语法偏误分析及其教学对策，大连理工大学国际教育学院讲座，2018年9月12、14日。
- ・汉语对举形式的语法特点及其教学对策，北京师范大学汉语文化学院，2018年9月17日。
- ・从外语视角看汉语语法的特点，北方工业大学文法学院，2018年9月18日。
- ・从近代以来“在日汉语教学”的变迁及现状；日语母语者的语法偏误分析及其教学对策；汉语对举形式的语法特点及其教学对策，首都师范大学讲座，2018年9月17、19、20日
- ・现代汉语对举形式的语法特点及其教学对策，北京语言大学汉语国际教育部讲座，2018年9月21日。
- ・在日汉语教学的现状及其课题，中华文明国际传播第二届论坛主题报告，同济大学国际文化交流学院，2018年11月20日。

- ・从公示语的语体特征看中国和日本的语言景观，第二届国家话语生态研究高峰论坛，华东师范大学，2018年11月21日。
- ・从日语汉字看现代汉语的字词教学，第三届华文教育国际学术研讨会，主题报告，暨南大学，2018年11月17日。
- ・日本学生汉字知识对汉语教学的“功”和“罪”，第三届汉字文化圈汉语教学国际学术研讨会，主题报告，2018年12月7日。
- ・“在日汉语教学”的现状及其课题：日本学生汉字知识的正负影响，上海外国语大学国际交流学院讲座，2018年12月25、28日。
- ・语法研究和教学应用；日本高考汉语试题的分析研究，大连理工大学讲座，2019年3月12、14日。
- ・感性教学法初探；日本学生为什么学汉语，大连工业大学讲座，2019年3月13、20日。
- ・在日“中国语”教学现状及课题；日语母语者汉语语法偏误分析及教学对策，第四届中国中南地区日语教学研究学术研讨会，湖南大学，2019年3月16-17日。

[その他の活動]

〈管理運営〉 グローバルイニシアティブ・センター海外拠点部門地域連絡会（東アジア拠点）

〈学会活動〉 世界漢語教学学会副会長、亜太地区国際漢語教学学会理事、中国語教育学会代表理事、桜美林大学孔子学院理事、上海華文教育研究中心專家、大連理工大学海天學者、北京語言大学對外漢語研究中心客座教授。

〈社会貢献活動〉 同濟大学（中国上海）・上海外國語大学（中国上海）・大連理工大学（中国大連）・国立交通大学（台湾新竹）との学术交流コンタクトパーソン、映画字幕翻訳講座コーディネイター、関西地区中国留学経験者同窓会会長、全日本中国留学経験者同窓会副会長。

今泉 秀人 (IMAIZUMI, Hideto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉 中国語中級

〈学部教育担当科目〉 中国語3、中国語14、中国語Ⅷ、中国文学研究、中国文学特別演習Ⅱ、中国文学講義Ⅰ、中国研究概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中国現代文学

〈所属学会〉 日本中国学会、日本現代中国学会、中国文芸研究会

[研究業績]

〈共著〉

- ・ "Dreams" and "Reality" in Shen Congwen's Wartime Works, with Special Focus on

"Dreams and Reality" (1940), "Plucking Stars" (1943), and "Gazing at Rainbows" (1943), by Imaizumi Hideto; Pamela Hunt, tr. *Routledge Companion to Shen Congwen* (Gang Zhou, Jeffrey C Kinkley, Sihe Chen) 2018.12.31

〈口頭発表〉

- ・「“郷土文学”の来し方行く末 現代中国文学の立場から」 「シンポジウム 〈地方〉 というレトリックの〈あと〉」 日本比較文学学会全国大会（日本大学）2018年6月10日
- ・「中国語映画における文化大革命のイメージについて」 [企画・司会] 日本現代中国学会第68回全国学術大会（早稲田大学）2018年10月21日
- ・「沈從文の“ミャオ族幻想”について」 台南研究集会（長榮大学〔台湾〕）2018年12月29日

[その他の活動]

〈管理運営〉 講座代表者会議委員

深尾 葉子 (Yoko FUKAO) 准教授

<https://www.fukaoyoko.com/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉

アジア言語社会動態論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉

国際コミュニケーション演習

〈学部教育担当科目〉

中国語Ⅸ a b

中国社会演習 a b

中国文化演習 I a b

中国語 1 1 (A)

中国語 1 1 (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉

黄砂発生の社会経済的アプローチ

中国黄土高原農村社会のコミュニケーションダイナミクス

海外中国人ネットワークの動態分析

〈所属学会〉

歴史文化工学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『黄砂の越境マネジメントー黄土・植林・援助を問いなおすー』大阪大学出版会

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「中国から注がれる熱いまなざしーインバウンドツーリズムの可能性について」 2018年12月20日阪大外国語学部×みのお市民活動センター、マンスリー多文化サロン
- 「『あたりまえの牢獄』からの脱出ー黄砂問題と福祉現場の思い込みを解くー」 2019年3月2日ジュンク堂難波店にて、兵庫県立大学竹端寛氏と著者トークイベント
- 「世界に発信、箕面産実生柚子の魅力ーヨーロッパで広がる日本産ゆずの利用」 2019年3月16日

〈研究助成〉

- ・大阪大学 Innovation Bridge グラント大型産学共創コンソーシアム組成支援プログラム
- 「健康長寿を実現する北摂市民による住民参加型プロジェクト」(2018年9月～継続中)
- 科学研究費基盤研究B 黄砂発生地域における表層土壌回復のための社会経済的アプローチ
- 代表者(2014年～継続中)

〈調査活動〉

- ・中国黄土高原における表層土壌回復のための社会経済的アプローチ
- フランス、イギリスにおける日本の里山資源の活用調査、里山経済の事例分析

[その他の活動]

〈管理運営〉 一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト助成事業審査委員

〈学会活動〉 歴史文化工学会副代表

〈社会貢献活動〉

林 初梅 (LIN Chumei) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉 ことばの世界

〈学部教育担当科目〉 中国文化演習Ⅱ、中国語講義Ⅳ、中国語講義ⅩⅡ、中国語11B、中国語5B

[研究活動]

〈研究テーマ〉 台湾における日本時代の集合的記憶、台湾の新南向政策

〈所属学会〉 日本台湾学会、東アジア近代史学会、多言語社会研究会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「国語と母語のはざま」『LANGUAGE AND LINGUISTICS IN OCEANIA』第10号、2018年7月、The Japanese Association of Linguistics in Oceania、pp.1-20
- ・「台湾小學的新住民語文教育及師資培育」『外国語教育のフロンティア』第1号、2018年3月、大阪大学大学院言語文化研究科、pp.1-6

- ・「国民党政府による日本的要素の容認と排除－戦後初期台湾における学校接收過程の一考察」『言語文化研究』第 44 号、2018 年 3 月、大阪大学大学院言語文化研究科、pp.149-168
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・講演「異郷で出会った私の母語：台湾語と華語」2018 年 11 月 29 日於常葉大学
- ・講演「語言、歴史與認同－從我的海外經驗談台語和台灣華語」2018 年 12 月 6 日於国立台湾師範大学
- ・口頭発表「台北帝国大学・台湾大学・延平大学－戦後初期台湾の大学接收・成立をめぐる」韓国研究センター創基 20 年記念国際學術ワークショップ「近現代の東アジア社会における「学歴/学校歴」の位相」（共催：大学文書館）2019 年 3 月 2 日於九州大学伊都キャンパス内日本ジョナサン・K S・チョイ文化館/中山ホール
〈研究助成〉
- ・科学研究費助成事業 基盤研究 (B)「文化的装置としての〈日本〉－戦後台湾における集合的記憶の社会的構成に関する研究」2018 年 4 月～2022 年 3 月(研究課題番号：18H03445)研究代表者
- ・科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽) (研究代表者：志賀幹郎)「「未来をつくる研究」としての外国人生徒児童教育研究－台湾の新南向政策の分析」2017 年 4 月～2020 年 3 月
(研究課題番号：17K18616) 研究分担者
〈調査活動〉
- ・戦後初期台湾人の進学体験についての聴き取り調査、台湾の新住民子女言語教育の現地調査
[その他の活動]
- ・〈管理運営〉国際交流委員会委員、外国学図書館運営委員会運営委員
- ・〈学会活動〉日本台湾学会理事

鈴木 慎吾 (SUZUKI Shingo) 講師

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/suzukish/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IA・B、アジア・アフリカ言語構造論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉広東語

〈学部教育担当科目〉中国語 16 (広東語初級)、中国語 19 (広東語初級)、中国語 Va・b (広東語中級)、中国語学演習 IIIa・b、中国語学特別演習 IIIa・b

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語学 (音韻・方言)

〈所属学会〉日本中国語学会、日本中国学会、漢字文献情報処理研究会、中国語教育学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・鈴木慎吾「中古漢語の韻母体系について一唇音性の有無による喉音韻尾二分説を起点に」
中国語学 265, 62-75, 2018
- ・鈴木慎吾「『切韻』諸本テキスト一覧システムの構築について」人文科学とコンピュータ
シンポジウム論文集 2018(1), 117-122, 2018
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・鈴木慎吾「北京語韻母体系の再考」(平成 30 年 11 月 4 日, 日本中国語学会第 68 回全国大会, 神戸市外国語大学)
〈研究助成〉
- ・『切韻』系韻書総合データベースの構築 (科学研究費補助金基盤研究 (C) 平成 28-31 年度; 研究代表者)
- ・平安時代漢字字書総合データベースによる研究基盤の確立 (科学研究費補助金基盤研究 (B) 平成 28-31 年度; 研究分担者)
- ・古典漢文形態素コーパスにもとづく動詞の作用域の自動抽出 (科学研究費補助金基盤研究 (B) 平成 29-31 年度; 研究分担者)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉未来共生イノベーター博士課程プログラムプログラム担当者 (2012 年~); 言語社会専攻ネットワーク管理委員 (2012 年 4 月~)、コンテンツ管理委員 (2012 年 4 月~)
- 〈学会活動〉日本中国語学会ウェブリソース委員長 (2012 年 4 月~)、評議員 (2016 年 4 月~); 中国語教育学会理事 (2018 年 4 月~)

中田 聡美 (NAKATA Satomi) 助教

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域対照言語論 IA, IB

〈共通教育担当科目〉中国語中級選択

〈学部教育担当科目〉中国語 1(B), 2(B)、東アジア言語文化概論、中国語 XIIIa, XIIIb、中国語学講義 Ia、中国語学特別演習 IIa, IIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉中国語学、特に現代中国語のモダリティに関する研究

〈所属学会〉日本中国語学会、中国語教育学会、国際中国語学学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“V 了+有+数量構造”に関する認知的考察——“V 了+数量構造”との比較を通して、『現代中国語研究』, 51-61 頁, 第 20 期, 2018 年 10 月。
- ・从身体部位词谈中日汉字异同及其教学应用, 『汉字文化圈汉语教学与研究』(河内国家大学出版社), 136-142 頁, 2018 年 11 月。

〈書評・論評・紹介〉

- ・上海・同済大学中国語実践&文化体験プログラムについて、『生産と技術』、第70巻第4号、89-91頁、2018年10月。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・从互动角度看“(看我)+不VP”结构, The 26th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics(IACL-26), (University of Wisconsin-Madison), 2018年5月6日。
- ・新兴构式“要不要+这么/那么+X”的构式义及其互动功能, 第三届互动语言学与汉语研究国际学术讨论会, (中国・北京语言大学), 2018年8月24日。
- ・从身体部位词谈中日汉字异同及其教学应用, 第三届汉字文化圈汉语教学国际研讨会, (ベトナム・河内国家大学下属外国语大学), 2018年12月7日。

[その他の活動]

〈管理運営〉 紀要編集委員会委員、協定校コンタクト・パーソン

〈学会活動〉

中国語教育学会デジタルリソース委員会委員、中国語教育学会第17回全国大会準備委員会委員 (2018年6月2日～2019年8月2日)

張 恒悦 (ZHANG Hengyue) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 広域言語実践論 AB

〈学部教育担当科目〉 中国語 5(A)、中国語 Ia(A)、中国語 18、中国語 12(AB)、中国語 I b(A) 中国語 IIab(B)。

[研究活動]

〈研究テーマ〉 誤用分析に基づく中国語教育文法の研究及び教育方法への提言

〈所属学会〉 日本中国語学会 中国語教育学会 日中対照言語学会

[研究業績]

〈単著〉

「巨大中国の今——中級中国語 デイバートへの招待」張恒悦(著) 古川裕(監修) 2019.

1 朝日出版社

〈論文〉

「“辯論式” 中级汉语会话教材开发——以发挥学习者的能动性为视点」『外国語教育のフロンティア』VOL.2 pp.249-258 2019. 3 大阪大学言語文化研究科

〈口頭発表〉

「可能補語をどう教えるべきか——日本語母語話者が産出した誤用例の分析を通して」

2018. 6. 3 中国語教育学会第16回全国大会 早稲田大学早稲田キャンパス

「並列関係にある語・句・節の接続——接続詞“和”の誤用分析を切り口に」2018. 12. 23 日中対照言語学会第40回大会 (2018年冬季大会) 大阪産業大学梅田サテライト

[その他の活動]

〈学会活動〉

『中国語教育』編集委員

劉 頌浩 (LIU SONGHAO), Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

博士後期課程, 広域対照言語論特別研究A, 春～夏学期

博士後期課程, 広域対照言語論特別研究B, 秋～冬学期

博士前期課程, 中国語特別演習A, 春～夏学期

博士前期課程, 中国語特別演習B, 秋～冬学期

<General Education classes>

中国語 4(B) (豊中開講), 通年

中国語 4(A) (豊中開講), 通年

中国語 13(A) 通年

中国語 13(B) 通年

中国語 Ia(B) 春～夏学期

中国語 Ib(B) 秋～冬学期

中国語 IIa(A) 春～夏学期

中国語 IIb(A) 秋～冬学期

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Teaching Chinese as a Second Language, Second Language Acquisition, Second Language Teacher Education

<Academic society memberships>

Lifelong member of International Society for Chinese Language Teaching

[朝鮮語]

岸田 文隆 (KISHIDA Fumitaka) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉「アジア・アフリカ言語構造論特別研究 II」、「アジア言語構造論 II」、「アジア言語文化表象論 III」

〈共通教育担当科目〉「朝鮮語中級」(1セメスターのみ)

〈学部教育担当科目〉「朝鮮語2」、「朝鮮語13」、「朝鮮語IV」、「朝鮮語学講義」、「朝鮮語学演習II」、「教科教育法(朝鮮語)」

[研究活動]

〈研究テーマ〉江戸・明治期の日本の朝鮮語学書についての研究

〈所属学会〉朝鮮学会、満族史研究会、朝鮮語研究会、韓国国語史学会、国際訳学書学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・松原孝俊・岸田文隆・北川英一・許秀美・金京美・金周弼・金徳珍・金東哲・権洙用・黄文煥・小西敏夫・酒井裕美・酒井雅代・趙垺熙・鄭丞惠・中野等・藤川貴仁・古川祐貴・朴真完・山口華代・横山恭子・四辻義仁・梁興淑(2018)『朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏—対馬宗家文庫ハングル書簡から読み解く』(九州大学韓国研究センター叢書 3)九州大学出版会

〈論文〉

- ・岸田文隆 (2018) 「江戸時代日朝往復ハングル文書の分布」『比較日本学』43(韓国漢陽大学校日本学国際比較研究所)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・岸田文隆 (2018) 「江戸時代日朝往復ハングル文書の分布」漢陽大学日本学国際比較研究所国際学術シンポジウム「韓国における日本研究と日本における韓国研究」(大韓民国)
- ・岸田文隆 (2019) 「倭学訳官崔[王岡](伯玉)とそのハングル書簡」成均館大学東 ASIA 学術院 HK 研究所主催国際学術会議「東亜的私文書研究」(大韓民国)

〈研究助成〉

- ・平成 29 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)、課題番号: 17K02725、研究 課 題 名: 江戸・明治期日朝往復ハングル書簡類データベースの構築

[その他の活動]

〈管理運営〉FD 研修委員会委員、外国語学部副学部長

〈学会活動〉朝鮮学会幹事、満族史研究会幹事、朝鮮語研究会幹事、韓国国語史学会編集委員、国際訳学書学会会長

〈社会貢献活動〉東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研修専門委員会委員

小西 敏夫(KONISHI Toshio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア・アフリカ言語構造論、アジア・アフリカ言語社会研究序説、アジア・アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習(朝鮮語)

〈学部教育担当科目〉朝鮮語、朝鮮語学演習、朝鮮文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉『積譜詳節』『月印千江之曲』『月印積譜』とその原典における言語表現の違いについて

〈所属学会〉朝鮮学会、日本言語学会、西日本言語学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・『朝鮮通信使易地聘礼交渉の舞台裏—対馬宗家文庫ハングル書簡から読み解く』(九州大学出版会)

酒井裕美 (SAKAI Hiromi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論I、アジア・アフリカ言語社会論特別研究

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉 朝鮮文化演習I、朝鮮文化演習II、朝鮮文化演習VI、朝鮮語 1 2、朝鮮文化講義、朝鮮社会文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 朝鮮近代外交史

〈所属学会〉 朝鮮史研究会、朝鮮学会、東アジア近代史学会

[モンゴル語]

塩谷 茂樹 (SHIOTANI Shigeki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 モンゴル語

〈共通教育担当科目〉 ユーラシアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 モンゴル語、アルタイ諸語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 モンゴル言語学（形態論、語彙論）、モンゴル口承文芸（ことわざ、民話、慣用句）

〈所属学会〉 日本モンゴル学会、国際モンゴル学会

[研究業績]

〈単著・共著〉

- ・『土族語文法』(2018) 塩谷 茂樹 何 菊紅 著、東外大 AA 研 ISBN 978-4-86337-294-8
- ・『土族語例文・会話』(2018) 塩谷 茂樹 何 菊紅 著、東外大 AA 研
- ・『土族語語彙』(2018) 塩谷 茂樹 著、東外大 AA 研
- ・『土族語作文』(2018) 塩谷 茂樹 著、東外大 AA 研

今岡良子 (IMAOKA Ryoko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会構造論 I A/B

〈共通教育担当科目〉 現代社会を読み解く、平和の探求、特別外国語演習（モンゴル語）II

〈学部教育担当科目〉 モンゴル語 2、モンゴル語 15、モンゴル社会文化概論、モンゴル社会講義 a/b、モンゴル社会演習 IIa/b、モンゴルフィールドワーク演習 a/b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 遊牧と生物多様性

〈所属学会〉 畜産システム研究会、日本環境学会、国際モンゴル学会、モンゴル研究会

中嶋 善輝 (NAKASHIMA Yoshiteru) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 V A, B

〈共通教育担当科目〉 モンゴル語初級 I

〈学部教育担当科目〉 モンゴル語 3, モンゴル語学演習 I, II a, b, モンゴル語 13, カザフ語 a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 モンゴル語とチュルク語の言語接触, アルタイ言語学

〈所属学会〉 日本モンゴル学会, 大阪大学言語社会学会, 国際モンゴル学会

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本モンゴル学会理事, 国際モンゴル学会書記局メンバー

Magsarjav Bayarsaikhan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> mongolian

<Foreign language classes> mongolian

[Academic activities]

<Research Fields and interests> linguistics

<Academic society memberships> Japan Association for Mongolian Studies

[Research achievements]

<Books> Kiril mongyol bičig. /bükü ulus-un degedü suryayuli-du jiyagu materiyal/, erkilen nayirayuluuçi: Hasmandal, nayiruyuluuçid: J.Bayansan, M.Bayarsaikhan, Battuul, B.Mönggünčecceg, Öbür Mongyol-un yeke suryayuli-yin keblel-ün qoriy-a, Kökeqota, 2018.7, ISBN 978-7-5665-1437-0 (Textbook of Mongolian Language in cyrillic, edited by Hasmandal, authors: J.Bayansan, M.Bayarsaikhan, Battuul, B.Mönggünčecceg, Hohhot, Inner Mongolia, 2018.7, ISBN 978-7-5665-1437-0)

【アジアⅡ講座】

〔インドネシア語〕

菅原 由美 (SUGAHARA Yumi) 准教授

〔教育活動〕

- 〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論、アジア地域社会論
- 〈共通教育担当科目〉 基礎セミナー「インドネシアの歴史と社会」、歴史学方法論講義：歴史学のフロンティア
- 〈学部教育担当科目〉 インドネシア語、インドネシア文化講義Ⅰ、インドネシア文化演習Ⅰ、Ⅱ、東南アジア社会文化演習Ⅱ(K)、言語文化比較交流論(H-I)、東南アジア地域研究概論
- その他 海外研修(インドネシア)

〔研究活動〕

- 〈研究テーマ〉 インドネシア史、東南アジア・イスラーム史
- 〈所属学会〉 東南アジア学会、史学会、日本インドネシア学会、日本イスラム協会、インドネシア研究懇話会、Masyarakat Pernaskahan Nusantara/ Manassa (インドネシア写本学会、インドネシア)、Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde (王立言語地理文化研究所、オランダ)

〔研究業績〕

〈論文〉

- 菅原由美. 2019. 「東南アジアにおけるイスラームの展開とキターブ文献の成立」『史苑』79(1): 97-119.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- 口頭発表
- Yumi Sugahara, "Sunan Bonan's teaching: Theology and Sufism in 16th Java" International Symposium "Transformation of Religion as Reflected in Javanese Texts (2) Rethinking the Process of Islamization" 2018.6.30. Osaka School of International Public Policy (OSIPP), Osaka University.
- 菅原由美. 「東南アジアにおけるイスラームの展開とキターブ文献の成立」 「東南アジアのキターブ比較研究」 2018年度研究会 科学研究費・基盤研究(C) 「キターブの地域間比較と時代的変容からみる東南アジア・ムスリムの思想・社会の動態」 2019.1.13 上智大学
- Yumi Sugahara, "The Admonitions of Seh Bari" Research Group "New Directions in the Study of Javanese Literature: Reassessing ideas, methods and theories in the study of the literature of Java, Indonesia" 2019.3.8. Israel Institute for Advanced Studies, Hebrew University of Jerusalem, State of Israel.

〈研究助成〉

- 科研基盤研究(B) 海外学術調査「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」(平

成 28～31 年度) 研究代表者

- ・ 科研基盤研究 (C) キターブの地域間比較と時代的変容からみる東南アジア・ムスリムの思想・社会の動態」研究代表 川島緑 (平成 29-31 年度) 研究分担者
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用共同研究「ジャワ語テキストにみるジャワの宗教変容 (2) ジャワのイスラーム化再考」(2016 年度～2018 年度) 研究代表

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・ 設備・施設マネジメント委員会委員
- ・ 適塾記念センター・オランダ学研究部門兼任教員

〈学会活動〉

- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所出版 *Javanese Studies Series* 編集委員
- ・ *Javanese documents online (JVDO)* URL: <https://jvdo.aa-ken.jp/>
- ・ インドネシア写本学会誌 *Manuskripta: Jurnal Manassa* 編集顧問
- ・ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同利用共同研究「東南アジアのイスラームと文化多様性に関する学際的研究 (第二期)」(2014 年度～2016 年度) 共同研究員
- ・ 上智大学アジア文化研究所共同研究員
- ・ 天理大学南方文化研究会『南方文化』編集委員
- ・ 日本インドネシア学会会監査担当 (～2018.11)
- ・ 日本東南アジア学会総務委員 (～2018.12)
- ・ 日本東南アジア学会会計理事 (2019.1～)
- ・ インドネシア研究懇話会総務 (2019.1～)
- ・ 箕面アジア勉強会/ 大阪大学地域研究フォーラム (OUFAS) 世話人
- ・ 国際会議開催 *International Symposium “Transformation of Religion as Reflected in Javanese Texts (2) Rethinking the Process of Islamization”*、2018 年 6 月 30 日～7 月 1 日、大阪大学豊中キャンパス国際公共政策研究科
- ・ *Visiting scholar, Research Group “New Directions in the Study of Javanese Literature: Reassessing ideas, methods and theories in the study of the literature of Java, Indonesia”* Initiator: Ronit Ricci, 2019. 3.1～3.24. Israel Institute for Advanced Studies, Hebrew University of Jerusalem, State of Israel.

〈社会貢献活動〉

- ・ 国際交流基金アジアセンター日本語パートナーズ派遣研修用出張講義、2018 年 8 月 8 日、関西国際センター
- ・ 「東南アジアのイスラーム教徒」第 50 回大阪大学公開講座講演、2018 年 10 月 29 日、大阪大学中之島センター10 階 佐治敬三メモリアルホール

原 真由子 (HARA Mayuko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 IX、アジア・アフリカ言語文化研究序説（リレー講義）

〈共通教育担当科目〉特別外国語（インドネシア語初級）

〈学部教育担当科目〉インドネシア語4、インドネシア語13、インドネシア語III、インドネシア語学講義I、東南アジア社会文化演習II、インドネシア語学演習I

[研究活動]

〈研究テーマ〉社会言語学（インドネシア・バリ）、インドネシア語教育

〈所属学会〉日本言語学会、社会言語科学会、日本音声学会、日本インドネシア学会、外国語教育学会、Masyarakat Linguistik Indonesia

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Hara Mayuko, “Unsur Penegasan dan Pemfokusan (Toritate) dalam Bahasa Indonesia”, Kongres Internasional Masyarakat Linguistik Indonesia 2018 (13-16 Agustus 2018, Universitas Papua, Indonesia)
- ・ 原真由子「インドネシア語の saja は『だけ』だけ？」OSIP 記念フォーラム基調講演、OBP アカデミア、2019年2月16日

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（C）（代表）
- ・ 科学研究費補助金・基盤研究（C）（分担）

[その他の活動]

〈管理運営〉研究推進企画委員会

〈学会活動〉日本インドネシア学会事務局

[フィリピン語]

大上 正直 (OUE Masanao) 教授

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/ouue/oue.html>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 XI（フィリピン語）、アジア・アフリカ言語社会研究序説、アジア・アフリカ言語社会論特別研究B

〈学部教育担当科目〉フィリピン語1（1年）、フィリピン語11（2年）、フィリピン言語演習（2年）、フィリピン語I（3・4年）、フィリピン言語講義I（3・4年）、フィリピン言語特別演習I（3年）、フィリピン言語特別演習II（4年）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フィリピン語辞書編纂のためのコーパス構築と携帯端末用アプリの開発研究（科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究）、フィリピン語辞書編纂研究、フィリピン語文法研究

〈所属学会〉 日本言語学会、大阪大学言語社会学会、日本インドネシア学会

[その他の活動]

〈管理運営〉 全学教育推進機構教育言語部会、言語社会専攻フィリピン語部会主任

〈社会貢献活動〉 GSEP (世界電力首脳有志の会議)奨学金プログラム学識者選考委員会日本代表委員

宮脇 聡史 (MIYAWAKI Satoshi) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ言語社会論特別研究、アジア言語社会構造論、言語文化比較交流論

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 フィリピン語（1年、2年、3・4年の各科目）、東南アジア社会文化演習、フィリピン社会演習、東南アジア地域研究概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 フィリピンのキリスト教のグローバルな社会変容の中での動向と言説分析、教会と性的少数者、性と生殖に関する動向と言説分析

〈所属学会〉 東南アジア学会、アジア政経学会、「宗教と社会」学会、日本比較政治学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

・『はじめての東南アジア政治』（分担）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・ Three Decades of the Post-EDSA Philippine Catholic Church: Some Reflections from the list of CBCP Documents (Philippine Studies Conference in Japan 2018 (PSCJ 2018) in Hiroshima, November 17 - 18, 2018)

〈研究助成〉

・ 科学研究補助金（基盤 B（分担）） 東南アジアにおける LGBT の比較政治研究

〈調査活動〉

・ 台湾・台北におけるプライド・マーチ参与観察、及び台湾政治大学と科研グループの共同研究会実施（2018年10月27日～29日）

・ フィリピン・マニラにおける教会と政治の動向に関する文献調査（2019年2月19日～22日）

[その他の活動]

〈管理運営〉 講座代表者（アジア II 講座）、総務委員（委員長）、なんでも相談室員

〈学会活動〉 東南アジア学会総務委員

〈社会貢献活動〉 認定 NPO 法人アイキャン理事

〔タイ語〕

宮本 マラシー (MIYAMOTO Marasri) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ文化表象論特別研究A,B、 アジア言語文化表象論 IV A,B

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (タイ語)

〈学部教育担当科目〉 ←タイ語 5、タイ語 13、タイ語IVa,b、タイ語学演習 a,b、東南アジア言語講義 a,b

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 タイ語における反復表現、タイ料理の命名

〈所属学会〉 日本言語学会、社会言語科学会、日本認知言語学会、大阪外国語大学言語社会学会

〔研究業績〕

〈単著〉

- ‘State of Thai Studies in Japan’ “International Conference Commemorating the 60th Anniversary of Korea-Thailand Diplomatic Relations---60 Years of Friendship – A New Horizon of Academic Cooperation for Mutual Prosperity”, Korean Association of Thai Studies, pp.90-94, 2018年10月。

〈論文〉

- 「タイ語における名詞の反復」、『外国語教育フロンティア』第2号、大阪大学大学院言語文化研究科、pp. 29-51、2019年3月。
- 「タイ語における料理の命名 Words for Naming Foods in the Thai Language」、『The Liberal Arts Journal』 Vol.1, No.2、Mahidol University、pp.55-82、2018年7月。
<http://www.la.mahidol.ac.th/lajournal/>

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ‘State of Thai Studies in Japan’、 “International Conference Commemorating the 60th Anniversary of Korea-Thailand Diplomatic Relations “、2018年10月5日、International Conference Room, Obama Hall Hankuk University of Foreign Studies, Korea.

〈調査活動〉

- 2018年8月27日～9月7日、タイ語の反復語表現の資料収集及びタイ語教材作成の共同研究
- [その他の活動]

〈社会貢献活動〉 朝日カルチャーセンターの「タイ語会話」

村上 忠良 (MURAKAMI Tadayoshi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会構造論、アジア地域社会論

〈学部教育担当科目〉 タイ語 1、タイ語 11、タイ語Ⅱ、タイ文化演習、東南アジア社会文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 東南アジア大陸部の仏教徒の声と文字をめぐる宗教実践

〈所属学会〉 日本文化人類学会、日本タイ学会、東南アジア学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『呪者の肖像』臨川書店、川田牧人・白川千尋・関一敏（編）、担当「タイ北部におけるシャンの在家朗誦師の活動」（pp. 145-162.）、2019年2月、

〈論文〉

- ・「シャンの在家仏教徒朗誦の特徴—タイ国内の仏教文書朗誦との比較より—」『年報タイ研究』18:59-72、2018年7月

〈研究助成〉

- ・研究分担者、科学研究費補助金、基盤（A）、「東南アジア大陸部宗教研究の新パラダイムの構築」、研究代表者：片岡樹（京都大学）

〈調査活動〉

- ・2018年8月10日～8月14日、タイ仏教徒の写本朗誦についての調査、タイ国バンコク
- ・2019年2月10日～2月18日、タイ仏教徒の写本朗誦についての調査、タイ国バンコク

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本タイ学会理事、大阪大学言語社会学会理事

〈社会貢献活動〉 大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会「咲耶会」幹事

日向 伸介 (HINATA Shinsuke) 助教

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論Ⅴ

〈学部教育担当科目〉 タイ社会演習、タイ社会講義、タイ語3、タイ語15、タイ語Ⅲ、東南アジア地域研究概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 タイ近現代史、地域研究

〈所属学会〉 東南アジア学会、日本タイ学会、全日本博物館学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・日向伸介. 2019. 「近代タイにおける考古学行政の導入過程：第一次世界大戦と「古物調査・保存に関する布告」(1924)を契機として」『アジア・アフリカ地域研究』18 (2): 113-134.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・日向伸介. 「パッタヤー歓楽街の形成：タイにおける冷戦・観光・性的多様性をめぐり一考察」(日本タイ学会第20回研究大会、2018年7月8日、大阪大学)
- ・日向伸介. 「戦前・戦中期における「山田長政」像：視覚史料を中心として」(日タイ言語文化研究会第6回東京大会、2018年7月28日、大東文化大学)
- ・HINATA Shinsuke. “Pattaya Entertainment District: A History of Cold War, Tourism and Sexual Diversity in Thailand” presented at A Workshop on LGBT Politics in Southeast Asia and Japan, held on Oct. 28, 2018 at Taiwan-Asia Exchange Foundation.
〈研究助成〉
- ・2016年度文部科学省:科学研究費補助金(基盤研究B)「東南アジアにおけるLGBTの比較政治研究」(代表者:日下渉)(継続)
[その他の活動]
〈学会活動〉東南アジア学会第27期編集委員

Buranapatana Maliwan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Thai Language and Culture, Short Stories and Thai Society, Language Variations, Language Change

<Foreign language classes> Thai Folktales, Thai Short Story: Interpretative Reading, Thai Ia Academic Speaking, Thai Ib Thai Speech, Thai 4 Listening I, Thai 14 Listening II, Thai 2 Conversation in Daily Life I, Thai 12 Conversation in Daily Life II

[Academic activities] Training activities on Thai speech contest at Kanda University of International Studies, Tokyo

<Research Fields and interests> Teaching Thai as a foreign language, Classical Thai literature, Usage of Thai language

[Research achievements]

<Papers> *Promoting the listening comprehension of Japanese students through listening strategies: A case study of a Thai language listening course*, *Frontier of Foreign Language Education* 2, 2019, pp.287-300.

[Other activities]

<Academic society activities> Training activities for the students focus on learning Thai culture such as Songkran festival or Thai new year, Thai food and Thai dancing

[ベトナム語]

清水 政明 (SHIMIZU Masaaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論Ⅶ、アジア・アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 アジア言語文化研究入門、情報活用基礎

〈学部教育担当科目〉 ベトナム語 2、ベトナム語 13、ベトナム語 V、ベトナム言語演習、教科教育法（ベトナム語）、東南アジア社会文化演習 IIb(D)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ベトナム語教育、ベトナム語音韻史、字喃研究

〈所属学会〉 日本漢字学会、東南アジア学会、日本中国語学会、言語の類型的特徴をとらえる対照研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 近藤美佳、清水政明、「在日ベトナム人児童のための継承ベトナム語カリキュラム考案に向けて」、『母語をなくさない日本語教育は可能か 定住二世児の二言語能力』、大阪大学出版会、2019年、pp.181-209.
- ・ 清水政明、「日本における漢喃研究—回顧と展望—」、『漢字学ことはじめ』、日本漢字学会、2018年、pp. 85-99.

〈論文〉

- ・ 清水政明、平野綾香、「ベトナム語の類別詞句」、『言語の類型的特徴対照研究会論集』創刊号、言語の類型的特徴対照研究会編、日中言語文化出版社、2019、pp.133-149
- ・ 清水政明、「ベトナム語正書法の標準化について」、『日本語学』、2018年5月特大号、pp.54-65、〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・ Shimizu Masaaki, Về việc áp dụng kì thi năng lực tiếng Việt quốc tế vào chương trình giảng dạy tiếng Việt tại Đại học Osaka (Nhật Bản), Workshop quốc tế về việc giảng dạy và đánh giá năng lực tiếng Việt, March 8-9, 2019, National Cheng Kung University, Taiwan.
- ・ Shinizu Masaaki, Cooperation between Taiwan and Japan on Southeast Asian studies and teaching - A Case of Language Studies and Teaching -, Workshop quốc tế về việc giảng dạy và đánh giá năng lực tiếng Việt, March 8-9, 2019, National Cheng Kung University, Taiwan.
- ・ Shimizu Masaaki, A Development of a Web-Based System to Evaluate the Level of Vietnamese Words in Teaching Materials, International Conference on Vietnamese Studies: Globalization and its impact on teaching and learning Vietnamese, Dec. 22, 2018, Ton Duc Thang University.
- ・ 清水政明、「ベトナム語の名詞化について」、『言語の類型的特徴をとらえる対照研究会』第9回公開発表会、名古屋大学、2018年12月14日
- ・ Shimizu Masaaki, Sino-Vietnamese Readings in the 15th Century -evidence from the Chu Nom materials -, the 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics,

2018-09-25~28, Kyoto University, Japan.

- ・清水政明、「カップリング・インターンシップ (CIS) プログラムとその外国語教育における役割—複言語主義的コミュニケーション能力の養成を目指して—」第3回国際シンポジウム『グローバル化時代における日本語教育と日本研究』2018年10月17日、ハノイ大学、pp.534-546.
- ・Shimizu Masaaki, Quá trình đọc chữ Nôm trong văn bản cổ Việt Nam, Workshop quốc tế về văn hoá Việt Nam, Khoa Văn học Đài Loan, Đại học Thành Công, June 16-17, 2018
〈研究助成〉
- ・科研費基盤研究 B「ベトナム東北部諸言語に見られる借用漢語音の研究」(研究課題番号：17H04522 代表者：東京大学 吉川雅之) 分担者
- ・科研費基盤研究 C「ウェブを利用したベトナム語習得度試験システム開発のための基礎的研究」(研究課題) 番号：16K02961 代表者：大阪大学 清水政明) 代表者
- ・京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点 IPCR 「東南アジア地域文献の資料論的研究—ハンノム文献を中心として—」(代表：大阪大学 清水政明)
- ・慶応義塾大学言語文化研究所共同研究「字喃(チュノム)資料研究会」兼任所員
- ・慶応義塾大学言語文化研究所共同研究「東南アジア諸言語研究会」兼任所員
〈調査活動〉
- ・台湾国立成功大学サバティカル滞在(平成30年4月~9月)
[その他の活動]
〈学会活動〉
- ・東南アジア学会理事
- ・日本漢字学会理事
- ・言語の類型的特徴をとらえる対照研究会理事

ファン・ティ・ミィ・ロアン (PHAN Thi My Loan) 講師

[教育活動]

〈共通教育担当科目〉 東南アジア言語講義 a、b

〈学部教育担当科目〉 ベトナム語1、ベトナム語11、ベトナム文学演習a、ベトナム文化講義a、b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ベトナム人を対象とした新しい漢字・漢語学習指導法の提案

〈所属学会〉 東南アジア学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・デイリー日本語・ベトナム語・英語辞典(ベトナム語の部分を校閲した)(富田健次[監修]、2018年6月10日第1刷発行、三省堂)

Nguyen Thi Ngoc Tho, 特任講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 VA、アジア言語文化表象論 VB、ベトナム語特別演習 A、ベトナム語特別演習 B

〈学部教育担当科目〉ベトナム文学講義 a、ベトナム文学講義 b、ベトナム語 3、ベトナム語 1 5、ベトナム語 I a、ベトナム語 I b、ベトナム語 II a、ベトナム語 II b、ベトナム語 III a、ベトナム語 III b、ベトナム語 V a(B)、ベトナム語 V b

[研究活動]

〈研究テーマ〉ベトナム語教育

[研究業績]

〈論文〉

- ・典型的な日本人学生ベトナム語の文法的な間違い「đó」と「củ」、外国語教育フロンティア 2、大阪大学大学院言語文化研究科

[ビルマ語]

池田 一人 (IKEDA Kazuto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 VIA・B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A・B、アジア地域社会論 A・B、歴史学方法論講義 A・B

〈共通教育担当科目〉アジアの文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ビルマ語 5、ビルマ語 15、ビルマ文化演習 II a・b、ビルマ社会演習 I a・b、東南アジア社会概論 a・b、言語文化比較交流論 A・B

[研究活動]

〈研究テーマ〉ビルマ史、19 世紀ビルマの民族形成史、カレン民族問題をめぐる史観研究

〈所属学会〉東南アジア学会、Association for Asian Studies、史学会

[研究業績]

〈書評・論評・紹介〉

- ・(書評) 長田紀之著「胎動する国境—英領ビルマの移民問題と都市統治」(山川出版社、2016 年)『東南アジア—歴史と文化—』47 号: pp.113-118、2018 年 5 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「ロヒンギャ問題の現状についての報告」国際情勢研究所・東南アジア研究会 (於・国際情勢研究所、2018 年 7 月 5 日)

〈研究助成〉

- ・科研費基盤研究 (C)「ミャンマーのカレンを事例とした民族生成と民族問題化の過程に関する歴史研究」(研究代表者: 池田一人、課題番号: 16K03082、平成 28~30 年度)

- ・ 科研費基盤研究 (A)「東南アジア大陸部宗教研究の新パラダイムの構築」(研究代表者：片岡樹、課題番号：16H01895、平成 28 年～31 年度) 研究分担者

〈調査活動〉

- ・ 平成 30 年 9 月 7 日～22 日ミャンマー・ラカイン州などにおける科研調査
- ・ 平成 31 年 2 月 12 日～21 日ミャンマー・上ビルマ各地における科研調査
- ・ 平成 31 年 3 月 8 日～23 日イギリス・ロンドン市における科研調査

[その他の活動]

〈管理運営〉

- ・ 教務委員

〈学会活動〉

- ・ 東南アジア学会総務担当理事 (～2018 年 12 月)、編集担当理事 (2019 年 1 月～)

井上 さゆり (INOUE Sayuri) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化表象論 XVIII A、アジア言語文化表象論 XVIII B、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 A、アジア・アフリカ文化表象論特別研究 B、現代超域文化論 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習 (ビルマ語)

〈学部教育担当科目〉ビルマ語 1、ビルマ語 2、ビルマ語 11、ビルマ文化演習 I a、ビルマ文化演習 I b、ビルマ文学講義 I a、ビルマ文学講義 I b、世界文学・文化論講義 (リレー講義)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ビルマ古典音楽、ビルマ音楽史、ビルマ古典文学

〈所属学会〉東南アジア学会、東洋音楽学会、日本口承文芸学会、Burma Studies Group、The Society for Ethnomusicology、International Council for Traditional Music

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Oral Transmission System for Burmese Classical Songs: Bazat-hsaing or mouth-music for Burmese Harp Music, Sayuri Inoue, 13th International Burma Studies Conference, バンコク, タイ, August 3-5, 2018, 2018 年 08 月, 国際会議 (proceedings なし)
- ・ Oral Transmission System of Burmese Classical Songs Overview of bazat-hsaing or mouth-music, Sayuri Inoue, 5th SYMPOSIUM OF THE ICTM STUDY GROUP ON PERFORMING ARTS OF SOUTHEAST ASIA (PASEA), コタキナバル, マレーシア, 16-22 JULY 2018, 2018 年 07 月, 国際会議 (proceedings あり)

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成事業 (科研費) 基盤研究 (C)「ビルマ古典歌謡における口頭伝承システ

ムと口唱歌の記述研究」平成 30～32 年度 研究代表者

〈調査活動〉

- ・ 2018.8.27～9.23 ミャンマー・マンダレー市（音楽の口頭伝承に関する調査）

[その他の活動]

〈管理運営〉 図書委員会委員、評価委員会委員、入試委員会

〈学会活動〉

〈社会貢献活動〉

大塚 行誠 (OTSUKA Kosei) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語構造論 VII A・B、アジア言語構造論 XIV A・B、アジア・アフリカ言語構造論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習（ビルマ語）

〈学部教育担当科目〉 ビルマ語 3、ビルマ語 12、ビルマ語 II a、ビルマ語 II b、ビルマ語学演習 I a、ビルマ語学演習 I b、ビルマ語学演習 II a、ビルマ語学演習 II b、教科教育法（ビルマ語） a、教科教育法（ビルマ語） b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 クキ・チン系言語およびミャンマーで話されている諸言語の研究

〈所属学会〉 日本言語学会

[研究業績]

〈研究ノート〉

- ・ 大塚行誠 (2019) 「ラルテー語における動詞語幹の交替」大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化研究』45: :161-178.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Kosei OTSUKA: The structure of verb complexes in Asho Chin. The 51st International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, Kyoto University, Kyoto, 2012.9.27.
- ・ ○Jeremy PERKINS, Julián VILLEGAS, Seunghun J. LEE, Kosei OTSUKA: Using psychoacoustic roughness to measure creakiness in Burmese. The 5th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology, National Institute for Japanese Language and Linguistics, Tokyo, 2018.10.26.
- ・ ○Kosei OTSUKA, Keita KURABE: The cis- and translocative prefixes in Tiddim Chin and Jinghpaw. International Workshop Directional Prefix in Tibeto-Burman Languages, Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2019. 3. 29.

〈研究助成〉

- ・ 若手研究(B)「インド北東部におけるボム語の調査と文法記述」（研究代表者：大塚行誠、

課題番号：17K13442、2017年度～2019年度)

- ・ 基盤研究(B)「ビルマの危機言語に関する緊急調査研究」(研究代表者：倉部慶太、課題番号：17H04523、2017年度～2019年度)
 - ・ 科研費基盤研究(A)「ゾミア 2.0：「東南アジア」と「南アジア」の境域における開発・民族・宗教」(研究代表者：今村真央、課題番号：18H03599、2018～2022年度)
〈調査活動〉
 - ・ 2018年8月20日～2018年9月16日 ミャンマーにおける科研調査
 - ・ 2019年2月11日～2019年2月16日 バングラデシュとミャンマーにおける科研調査
 - ・ 2019年2月16日～2019年2月23日 ミャンマーにおける科研調査
 - ・ 2019年3月10日～2019年3月24日 ミャンマーにおける科研調査
- [その他の活動]
〈管理運営〉 紀要委員

テッテッ (Htet Htet) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ビルマ語特別演習 A, B、アジア言語文化表象論 VII A, B

〈学部教育担当科目〉ビルマ文学演習 Ia, b、ビルマ語 13、ビルマ語 14、ビルマ語 4 (豊中開講)、ビルマ語 IVa, b、ビルマ語 Ia, b、ビルマ語学講義 I a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉ビルマ語学、ビルマ語教育

[研究業績]

〈研究ノート〉

- ・ Htet Htet (2019) ဆက်သွယ်ရေးလမ်းကြောင်းဖွင့် မြန်မာစကားအသုံးများ : လူ့ဘာသာဗေဒ

[コミュニケーションを円滑にする為のビルマ語の表現] 大阪大学大学院言語文化研究科『外国語教育のフロンティア』2: 313-323.

【アジアⅢ講座】

[ヒンディー語]

高橋 明 (TAKAHASHI Akira) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉南アジア文化概論、アジアアフリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉特別外国語演習(ヒンディー語 1)

〈学部教育担当科目〉ヒンディー語 4、ヒンディー語 1 2, ヒンディー語II、ヒンディー文

学演習 1, 南アジア文化概論

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ヒンディー文学研究、マラーティー語語彙研究

〈所属学会〉 日本南アジア学会

[研究業績]

〈調査活動〉

- ・ 現代マラーティー語語彙の調査と語彙収集を行っています。少しずつ中期マラーティー語の語彙についても調査・収集の範囲を広げています。

長崎 広子 (NAGASAKI Hiroko) 准教授

<http://hin.minoh.osaka-u.ac.jp/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 III

〈共通教育担当科目〉 アジア言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉 ヒンディー語 4、ヒンディー語 13、ヒンディー語 III、ヒンディー文学演習 III、インド文化史講義 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中世ヒンディー文学

〈所属学会〉 日本印度学仏教学会、日本南アジア学会、American Oriental Society

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 太鼓と女は叩くべしー『ラームチャリットマーナス』の女性観一，印度民俗研究，18・49-59，2019年03月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ The Rhythm of Early Hindi Poetry as Reflected in the Pīngala Literature, 13th International Conference on Early Modern Literatures in North India, University of Warsaw, 2018年07月
 - ・ 15-6世紀のヒンディー・バクティ文学の思想と時代, 2018年度第1回AA研共同研究「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テキストの通言語的比較分析」研究会, 2018年10月
 - ・ Braj bhasha-language and literature, セミナー「ヒンディー語方言と文学」“The Dialects and Literature of Hindi”, 大阪大学中之島センター, 2018年12月
 - ・ The historical development of Hindi metrical rhythm, The University of Chicago, Center in Delhi, 2019年02月
- 〈研究助成〉
- ・ 科研費補助金基盤研究C「ヒンディー詩論書の形成と発展」

- ・クロスアポイントメント制度共同研究「ヒンディー語方言と文学」
〈調査活動〉
- ・Nehru University, The University of Chicago, Center in Delhi, Rajasthan Vidyapith
Sahitya Sansthan, (India: 2019.2.11-2.22)
[その他の活動]
〈学会活動〉日本南アジア学会常務理事
〈社会貢献活動〉アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員
〈セミナー主催〉「ヒンディー語方言と文学」(2018.12.16)
〈研究会主催〉「カビール研究会」(2019.3.11-15)
〈セミナー主催〉「南アジアとペルシア文学」(2019.3.11-14)

西岡 美樹 (NISHIOKA Miki) 准教授

<http://www1.lang.osaka-u.ac.jp/user/dumas/>

[教育活動]

- 〈研究科担当科目〉アジア言語構造論 XV (a/b)
- 〈共通教育担当科目〉ことばの世界
- 〈学部教育担当科目〉ヒンディー語 3、ヒンディー語 11、ヒンディー語学演習 I (a/b)、ヒンディー語学演習 II (a/b)、南アジア語学演習 I (a/b)

[研究活動]

- 〈研究テーマ〉ヒンディー語の文法記述と日本語との対照研究、ヒンディー語ウェブコーパスと検索システムの開発
- 〈所属学会〉日本言語学会、言語科学会、関西言語学会、日本南アジア学会
- 〈単著・編著書・共著〉

- ・Language Change in Modern Japanese: Different Identities between Generations, Miki Nishioka, *Language, Identity and Contemporary Society*, pp. 204-216, 2019年1月.
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・Tendency towards co-occurrence of negative sentences with *lena* TAKE as a V2: a corpus-based case study of Hindi, Miki Nishioka, 34th South Asian Languages Analysis Roundtable (SALA-34), 2018年6月19日.

[その他の活動]

- 〈管理運営〉安全衛生委員、外国語学部入試委員会委員
- 〈社会貢献活動〉出張模擬授業（京都府立洛北高等学校、西宮市立西宮高等学校、兵庫県立川西緑台高等学校）

ミニ講演企画（インドの経済改革について知ろう！ Understanding India's Economic Reforms 講演者 Dr. Nalin Bharti, IIT Patna）

Singh Ved Prakash , Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar In Hindi A, Asian Languages and Cultural Representations XA

<General Education classes>

<Foreign language classes> Hindi 5, Hindi 14, Hindi 15, Hindi I, Hindi language III, Hindi Literature II, Culture of South Asia 3

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Modern Hindi Prose and Poetry, Gandhism, Indian Freedom Movement, Travelogues

<Academic society memberships> None

[ウルドゥー語]

松村 耕光 (MATSUMURA Takamitsu) 教授

[教育活動]

<研究科担当科目> アジア言語文化表象論

<学部教育担当科目> ウルドゥー語実習、ウルドゥー文学演習、ウルドゥー語学演習

[研究活動]

<研究テーマ> 近代ウルドゥー文学

<所属学会> 日本南アジア学会、日本印度学佛教学会

[研究業績]

<論文>

・「雨と女と恋の歌—インドの雨季について—」、『印度民俗研究』18号（2019年3月）

<翻訳>

・「ガザル（2）—イクバルのウルドゥー詩（12）」『イスラーム世界研究』第12巻（2019年3月）

[その他の活動]

<管理運営> 大学院言語文化研究科言語社会専攻教務委員会委員長、外国学部教務委員会委員長、ウルドゥー語部会部会長、ウルドゥー語専攻代表

山根 聡 (YAMANE So) 教授

[教育活動]

<研究科担当科目> アジア言語社会動態論Ⅲa,b

<学部教育担当科目> ウルドゥー語2、ウルドゥー語12、南アジア文化概論 a,b、ウルドゥー語Ⅲa,b

南アジア文化演習 I a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ウルドゥー文学、南アジア・イスラーム論

〈所属学会〉 日本南アジア学会、大阪大学言語社会学会、アジア政経学会、西南アジア研究会、日本印度学仏教学会、日本オリエント学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・ 分担執筆「パキスタン」『NHK データブック世界の放送 2019』 pp.70-73, NHK 放送文化研究所, ISBN 978-4-14-007267-7, 2019 年 02 月
- ・ 共編著『食から描くインド 近現代の社会変容とアイデンティティ』, 春風社, ISBN, ISBN978-4-86110-630-0, 2019 年 02 月
- ・ 分担執筆「第十章 東西パキスタンの世辞・経済・社会」「第十一章 現代パキスタンの政治・経済・社会」長崎暢子編『南アジア史 4 近代・現代』, 山川出版社, ISBN 978-4-634-46211-3, 2019 年 03 月
- ・ 分担執筆「三章 イクバルのロンドン」小松久男編『歴史の転換期 10 1905 年 革命のうねりと連帯の夢』, 山川出版社, ISBN 978-4-634-44510-9, 2019 年 03 月

〈論文〉

- ・ 論文「2018 年のパキスタン—イムラン新政権誕生は「静かなクーデター」か」, 『紀要国際情勢』, 89 号, 2019 年 03 月
- ・ 解説「解「国」新書 債務対策が急務のパキスタン—イムラン新首相への期待と課題」, 『国際開発ジャーナル』, (745) 68-69, 2019 年 01 月

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ 「ウルドゥー語のなぞなぞ」, 『印度民俗研究』 第 18 号, 61-75, 2019 年 03 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Comment on Dr. Edwion P. Wieringa's "Not but Sword?—Some Critical Reflection on the Contemporary Sanitized Myth of Java's Early Islamization" , International Symposium on "Rethinking the Process of Islamization in Java", 2018 年 7 月 1 日
- ・ 「「静かなクーデター」による新政権樹立—パキスタン外交や治安の課題」, 中東情勢研究会, 2018 年 10 月 19 日
- ・ 「マウドゥーディー著作の翻訳をめぐる現代イスラーム復興思想の拡散について」 基盤研究 B「暴力による民主主義の 20 世紀：トランスナショナルヒストリーの試み」研究会 明治大学グローバルフロント 16 階国際武器移転史研究所会議室, 2019 年 02 月 23 日

〈研究助成〉

- ・ 研究分担者 基盤研究 B、「ジャワ語文献にみるジャワのイスラーム化再考」(研究代表者：菅原由美)
- ・ 研究分担者 基盤研究 B、「暴力による民主主義の 20 世紀：トランスナショナルヒストリーの試み」(研究代表者：長縄宣博)

〈調査活動〉

- ・パキスタンのイスラーム党本部図書館における文献調査(2018年9月)(基盤研究B「暴力による民主主義の20世紀：トランスナショナルヒストリーの試み」)

[その他の活動]

〈管理運営〉 副理事(財務担当)、副研究科長

〈学会活動〉 日本南アジア学会理事

〈社会貢献活動〉

- ・インタビュー "Urdu Zabaan Khatam Nahiin ho saktii", "Akhbaar-e Mashriq"(Calcutta, India), 2018年04月
- ・コメント「失望広がれば政情不安定化 パキスタン総選挙」, 毎日新聞 2018年7月28日 朝刊国際面
- ・コメント (@パキスタン)クリケットの名手が見せた政治の逆転劇, 朝日新聞デジタル (<https://www.asahi.com/articles/ASL7X1BW4L7WUHB1043.html>), 2018年7月31日付
- ・コメント 「パキスタン総選挙を控えて(日本語、ウルドゥー語)」, NHK ワールド(国際放送), 2018年07月
- ・解説 「【アフガニスタン】下院選控え治安悪化、和平の行方は不透明に」時事通信社 Janete-World(http://janet.jw.jiji.com/apps2/do/contents/view/528f1564095f2905b4aa7071c16831e4/20180823/518/viewtemplate1/janet_set), 2018年8月23日】
- ・講演 阪神シニアカレッジ4年生講座「宗教とテロの峻別へーパキスタンの選択」, 「宗教とテロの峻別へーパキスタンの選択」, 尼崎中小企業センター, 2018年9月25日
- ・講演 阪神シニアカレッジ「南アジアの食文化に見る宗教アイデンティティ」, 尼崎中小企業センター, 2018年09月25日
- ・報告 「災害時の多言語通知支援」大阪大学シンポジウム「産学官民で共に創る未来の社会」, ホテル阪急エキスポパーク, 2018年11月6日
- ・講演 「語りつくせぬマンゴ어의旨味」第32回シンポジウム・パーキスターン「わが愛・パキスタンマンゴ어」, 日本大学文理学部講堂, 2018年11月17日
- ・ディスカッサント 第3回大阪大学社会学共創連続セミナー「地域なくして大学なし」, 箕面市メイプルホール, 2019年1月20日
- ・講演 宝塚国際理解ゼミナール「パキスタンをめぐる新たな国際関係」宝塚市立南口会館, 2019年2月21日
- ・文献の出版「叙法の魔術」「インドの物語」「ミール全詩集」「イクバル詩集」『インドの叡智展』, 東洋文庫ミュージアム, 2019年1月30日～5月19日
- ・講演 「パキスタンの旅で見える歴史と文化」『パキスタンを知ろう!』, 西遊旅行, 2019年3月1日
- ・解説 「緊迫するインド・パキスタン情勢」朝日放送「正義のミカタ」2019年3月9日

北田 信 (KITADA Makoto) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉昨年度と同じ

〈共通教育担当科目〉昨年度と同じ

〈学部教育担当科目〉昨年度と同じ

[研究活動]

〈研究テーマ〉ウルドゥー語文学、新期インド・アリア語文学、南アジアの伝統芸能

〈所属学会〉日本南アジア学会、日本インド学仏教学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・北田信 2018年7月:「ネパールの演劇写本 ジャガトプラカーシャ・マッラ王のネワール語歌集」南アジア古典学、第13号、九州大学、345-357
 - ・Makoto Kitada (2018/12): "Nepāler 'Cacā' gān o prācīn bāmlār Caryāpad." *Bhābanagara. International Journal of Bengali Studies*, vol. 9, No. 10. Dhaka: Bhābanagara Foundation: pp. 1067-1075. (ベンガル語)
 - ・Kitada, Makoto (2019/01): Bengali drama from Nepal : Uṣāharaṇa-nāṭaka : A romanized text based on the manuscript : Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty. 研究成果報告書、阪大 OUKA 公開、LINK <http://hdl.handle.net/11094/71130>
 - ・Kitada, Makoto (2019/01): Pārijātaḥaraṇa, a Bengali drama from the 16th century Nepal. A romanized text based on the manuscript : Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty. 研究成果報告書、阪大 OUKA 公開、LINK <http://hdl.handle.net/11094/71131>
 - ・Kitada, Makoto (2019/02): Jalandharāsuravadha, a Bengali drama from the 16th century Nepal. A Romanized text based on the manuscript. Report on the research of dramatic manuscripts written in Nepal of the Malla dynasty. 研究成果報告書、阪大 OUKA 公開、LINK <http://hdl.handle.net/11094/71179>
 - ・Kitada, Makoto (2019/03): Baṛu Caṇḍīdās' Śrīkṛṣṇakīrtan and its parallels in two dramatic manuscripts from Nepal. Appendix to Jalandharāsuravadha, a Bengali drama from the 16th century Nepal. 研究成果報告書、阪大 OUKA 公開、LINK <http://hdl.handle.net/11094/71179>
 - ・Kitada, Makoto (2019/03): "Gastronomy and Hierogamy in 17th Century Deccan: Gulšan-e-'Iṣq, "Flower Garden of Love" by Nuṣratī, the Poet of Dakanī Urdu" In: *Islamic Study and the Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies*. Kyoto: Kenan Rifai Center for Sufi Studies, Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University. (Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 3): 293-322
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・Kitada, Makoto (2018/08): Kāth'māṇḍu-te Caryāpad, Baṛu Caṇḍīdāser Śrīkṛṣṇakīrtan, Bāmlā nāṭak.

Jādvapur University (Kolkātā, India). (ベンガル語による講演)

- Kitada, Makoto (2019/02): “Nava Caryāpada, Śrī Kṛṣṇa Kīrtan and Bengali dramas in Kathmandu” presented in the international conference: *Negotiations between the ‘Local’ and the ‘Global’ in ‘Cultural Bengal’: Community, Society and Politics*. Acharya Brojendra Nath Seal College (Cooch Behar, West Bengal, India) 招聘講演
 - 北田信：「絵画と旋律 ～ 音楽的細密画に描かれる鳥獣」南アジア学会 30 周年記念シンポジウム（於京都大学）「感覚からみるインド世界——動物・生業・芸能」、2018 年 10 月 28 日、京都大学稲盛財団記念ホール（招待講演）
 - 北田信（サロード）、藤澤ばやん（タブラ）：上記のシンポジウムにおける北インド古典音楽実演（招待）
〈研究助成〉
 - 科学研究費・基盤（C）17K02659
〈調査活動〉
 - 8 月および 2 月、インド、西ベンガル州 Bākurā District Bibardā にて伝統芸能の調査
 - 8 月、インド・ヒマーチャルプラデーシュ州で開催された Middle Bengali Camp に講師として参加
 - 9 月および 11 月、ネパール、カトマンドゥ盆地にて伝統芸能（帝釈天祭、カルティク・ナーチ演劇祭）の調査。ネパール国立古文書館所蔵の古ネワール語演劇写本の解読。
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉
 - 〈学会活動〉 日本南アジア学会英文誌編集委員
 - 〈社会貢献活動〉
 - 2018 年 6 月 24 日「世界の絵画 音楽の音楽 インドの細密画とインドの音楽」北田信（講演+サロード演奏）、高根忠司（タブラ演奏）、三田市立図書館本館（インドの細密画に関する講演と音楽演奏）
 - 2018 年 12 月 24 日「インド音楽ミニライブ」北田信（サロード）、藤澤ばやん（タブラ）民族楽器コイズミ（京都）（北インド古典音楽の演奏）
 - 2019 年 2 月 2 日「インド古典音楽演奏」北田信（講演+サロード）、藤澤ばやん（タブラ）NPO 創泉舎（宝塚）（ネパールの伝統演劇に関する講演と音楽演奏）

マルグループ・フセイン・ターヒル (TAHIR, Marghoob Hussain) 特任准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論 XII、ウルドゥー語特別演習

〈学部教育担当科目〉 ウルドゥー語 4、ウルドゥー語 5、ウルドゥー語 14、ウルドゥー語 15、ウルドゥー語 I、ウルドゥー語 II、ウルドゥー文学演習 II、ウルドゥー文学演習 V

[研究活動]

〈教育実践報告〉

- ・「日本人学生を対象としたウルドゥー語教育法」(ウルドゥー語) 『外国語教育のフロンティア』2, 大阪大学大学院言語文化研究科, pp.169-180.

〈研究テーマ〉ウルドゥー語文学

【アジア・アフリカ講座】

[アラビア語]

近藤 久美子 (KONDO Kumiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論 VIII、地域知識論特定研究 II

〈共通教育担当科目〉国際教養科目(中東の文化と社会を知る)

〈学部教育担当科目〉アラブ文学講義、アラブ文学特別演習、アラビア語演習 VIII、アラビア語 14、アラビア語 2、地域知識論 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉アラブ古典文学、アラビア語文法、アラブ民俗文化

〈所属学会〉日本中東学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、東アジア恠異学会、世界文学学会

依田 純和 (YODA Sumikazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語文化資源論

〈学部教育担当科目〉アラビア語実習・アラビア語中級(兼修外国語)・アラビア語学特別演習・アラビア語 I・マルタ語(研究外国語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉アラビア語方言論・セム語比較言語学・マルタ語学

〈所属学会〉日本中東学会・International Association of Maltese Linguistics・Association Internationale de Dialectologie Arabe・関西アラブ研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・“The Arabic Dialect and the Judeo-Arabic of the Jews of Tripoli” in Jewish Libya - Memory & Identity in text & Image, eds. J. Roumani, D. Meghnagi & J. Roumani (Syracuse University Press 2018) 85-106.

〈論文〉

- ・「トリポリのアラビア語ユダヤ教徒方言によるテキスト(1)」アラブ・イスラーム研究 16 (2018) 117-137。

〈調査活動〉

- ・イスラエルにてトリポリ出身のユダヤ教徒によるアラビア語方言の調査（2019/3/9 ~ 2019/3/19）

福田 義昭 (FUKUDA Yoshiaki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 1・2・11、アラビア語演習、アラブ文学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アラビア語、アラブ文学、日本・中東イスラム関係史

〈所属学会〉 日本中東学会、日本オリエント学会、関西アラブ研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「現代エジプト小説における祖国（ワタン）像《断章》『ワタン（祖国）とは何か——中東現代文学における Watan/Homeland 表象』(科学研究費補助金基盤研究 B (2015 - 2018) 現代中東の「ワタン（祖国）」的心性をめぐる表象文化の発展的研究（代表：岡真理）成果報告書）、2019年3月、133-151頁。
- ・「昭和期の日本文学における在日ムスリムの表象（4）——軽井沢篇」『アジア文化研究所研究年報』（東洋大学アジア文化研究所）第53号（2018）、2019年2月、1（238）-18（221）頁。

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・（口頭発表）「現代エジプト小説におけるワタン像：断章」《シンポジウム》「ワタンとは何か——現代中東における「ワタン（祖国）」表象をめぐって」（東京大学東洋文化研究所、2018年6月）。
- ・（口頭発表）“Limādhā Yutarjimūna al-Adab al-‘Arabī ilā al-Lughā al-Yābāniyya?: Nazra ‘alā al-Nuṣūṣ al-Muḥādhiya li-l-A‘māl al-Mutarjama (Why do they translate Arabic Literature into the Japanese Language?: A Look at the Paratexts of the Translated Works),” (アラビア語) Al-Mu’tamar al-Dawlī al-Khāmis: al-Tarjama wa-Ishkālāt al-Muthāqafa (5): Muntadā al- ‘Alāqāt al-‘Arabiyya wa-al-Dawliyya, (5th International Conference for Translation and the Problematics of Acculturation (The Ritz-Carlton Hotel, Doha, December 2018).

〈調査活動〉

- ・2019年3月5日—15日 エジプトの現代文学に関する調査および資料収集（カイロ）

[その他の活動]

〈管理運営〉 学生支援委員会委員長

〈学会活動〉 日本中東学会年報編集委員

〈社会貢献活動〉 シリア人・外国人相談会（大阪弁護士会主催）アラビア語通訳

仲尾 周一郎 (NAKAO Shuichiro) 助教

<http://fieldnet.aa-ken.jp/openpne/web/member/717>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 V

〈共通教育担当科目〉 特別アラビア語演習 (アラビア語) II

〈学部教育担当科目〉 アラビア語 3、アラビア語 4、アラビア語 14、アラビア語 II、アラブ文化論特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 記述言語学、言語接触論、東アフリカ多言語社会研究

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本ナイル・エチオピア学会、国際アラビア語方言学会、世界アフリカ言語学会議

[研究業績]

〈論文〉

- “Mountains do not meet, but men do: Music and sociocultural networks among Arabic creole-speaking communities across East Africa”, Stefano Manfredi & Mauro Tosco (eds.) *Arabic in Contact*, Amsterdam: John Benjamins. pp. 275-294.
 - 「周縁アラビア語における喉頭化音—アラビア祖語強調音の再建に向けて—」『アラブ・イスラム研究』16: 71-92.
 - 「アラビア語教育における「音韻規則」の扱いについて」『外国語教育のフロンティア』2: 335-353.
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- 「北東アフリカ非バントゥ諸語の参照文法」AA 研共同利用・共同研究課題「参照文法書研究」2017年度第2回研究会, 府中, 2018年3月6日.
 - 「北東アフリカにおけるアラビア語の動態: コンヴィヴィアル・マルチリンガリズム」「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服 人類の未来を展望する総合的地域研究, 第9回全体会議, 京都, 2018年6月16日.
 - 「ベニシャングル・アラビア語における放出音: アラビア祖語への示唆」平成30年度第一回エチオピア諸語研究会, 豊中, 2018年11月10日.
 - 「アラビア語諸変種と動詞連続」フィールド言語学ワークショップ: 第14回文法研究ワークショップ「動詞連続の諸問題」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 府中, 2019年1月12日.
 - “African Plurilingual Tradition and Conviviality: Lessons from Non-Arab Arabic-Speaking Communities in Eastern Africa”, International Symposium on African Potentials and the Future of Humanity, Kyoto, 27 January 2019.

〈研究助成〉

- ・国際共同研究強化(B) (研究課題番号：18KK0009)「エチオピア諸語の記述とドキュメンテーション：ソーシャル・イノベーションにむけて」研究代表者：乾 秀行 (2018-2022)〈調査活動〉
- ・エチオピア・アソサ (フィールドワーク)：2019年3月9日～19日
[その他の活動]
〈管理運営〉 図書委員会委員
〈学会活動〉 関西アラブ研究会編集委員、京都大学言語学研究編集委員
〈社会貢献活動〉
- ・阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン講師 (2018年11月15日)
- ・Christian Science Monitor (アメリカ・新聞社) からのインタビュー (2018年9月26日)
- ・FECAA Radio (オーストラリア・コミュニティラジオ) 出演 (2019年2月9日)

Abdelrahman Tareq Sadeq Elsharqawy, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> COURSE IN Arabic Language and Linguistics.

<General Education classes> Arabic Islamic Culture.

<Foreign language classes> Arabic Language courses in Modern Standard and Dialect.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Modern Arabic Literature, Comparative Literature, Translation Studies.

<Academic society memberships> Japanese Association For Middle Eastern Studies, Kansai Society for Arabic and Islamic studies.

[Research achievements]

<Papers> Translation of Qandil Umm Hashim: a reading from the View Point of Translation Studies.2018.

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

Arabic learners and difficulties in achieving continuity in learning James 2018

Learning Arabic in Japan: Reflections on needs, Methods and Results.

[ペルシア語]

藤元 優子 (FUJIMOTO Yuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア・アフリカ文化表象論特別研究、アジア言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉 国際教養 1 (中東の文化と社会を知る)

〈学部教育担当科目〉 ペルシア語 2、ペルシア語 12、ペルシア語V、ペルシア文学講義、

ペルシア文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イラン現代文学

〈所属学会〉 日本中東学会、日本オリエント学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・「わたしのサンクチュアリと祖国——『男のいない女たち』に見る小説と映画の間——」
『ワタンとは何か 中東現代文学における Watan/Homeland 表象』(科研費 B 現代中東
の「ワタン(祖国)」的心性をめぐる表象文化の発展的研究 成果報告書) 2019年3月、
pp.161-175.

〈論文〉

- ・「物書くわたしの系譜——イラン現代文学における女性作家——」『學士会会報』934、2019
年1月、pp.45-49.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・「ファリーバー・ヴァフィー著『私の鳥』——翻訳と解説——(前編)」『イラン研究』15、
2019年3月、pp.146-194.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「イラン人の人づきあいの機微を知る——ママのお客——」シネ倶楽部 M、『月刊み
んぱく』12月号、2018年12月、pp.18-19.
- ・「みんなくワールドシネマ「ママのお客」」『社会科 NAVI』vol. 21、2019年1月、pp.14-15.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・イスラーム・ジェンダー学科研 x グローバル関係学科研企画シンポジウム 記憶と記録
からみる女性たちと30年——装いにうつるイスラームとジェンダー——「革命後のイ
ラン女性とヒジャーブ」(2018年7月8日 於：東京大学)
- ・みんなくワールドシネマ「ママのお客から覗くイラン」(2019年2月25日 於：国立民
族学博物館)

〈研究助成〉

- ・科研 基盤研究 (C) 「1980年代から2000年代のイランにおける女性小説の研究」(H30
～H33) 研究代表者
- ・科研 基盤研究 (B) 「現代中東の「ワタン(祖国)」的心性をめぐる表象文化の発展的研究」
(H27～H30) 研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 学部入試委員会委員、全学入試委員会委員

竹原 新 (TAKEHARA Shin) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語文化資源論 VIA、アジア言語文化資源論 VI B

〈共通教育担当科目〉 中東の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 ペルシア語 3、ペルシア語 1 3、ペルシア語 IIIa、ペルシア語 IIIb、イラン文化特別演習 a、イラン文化特別演習 b、イラン文化講義 a、イラン文化講義 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究

〈所属学会〉 日本オリエント学会、説話・伝承学会、日本昔話学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・竹原新「イランの妖怪制御譚」、『イラン研究』第 15 号、2019 年、pp. 17-31。

〈研究助成〉

- ・「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」、平成 26～30 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究(C)

〈調査活動〉

- ・「イラン口承文芸に関する資料収集」（イラン）、「イランの口承文芸に関する現地調査資料の基盤整備と民俗学的応用研究」、平成 26～30 年度 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究(C)、2017 年 9 月。

[その他の活動]

〈管理運営〉 大学院言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻講座代表者会議、大学院言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻ネットワーク管理委員会委員、大学院言語文化研究科言語社会専攻／日本語・日本文化専攻コンテンツ管理委員会委員、CALL システムワーキング委員

〈学会活動〉 説話・伝承学会委員、日本昔話学会委員

Jahedzadeh Shorblagh Behnam 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉

〈共通教育担当科目〉 中東・アフリカ言語文化研究

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ペルシア語学、対照言語学

〈所属学会〉 関西言語学会、イラン研究会、言語の類型的特徴をとらえる対照研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「日本語母語話者初級ペルシア語学習者の作文における誤用分析」『イラン研究』第 15 号、pp.1-16. (2019 年 3 月 28 日発行)

- ・「ペルシア語の品詞分類における柔軟性と曖昧性について」『外国語教育フロンティア』第2号, pp.53-66. (2019年3月29日発行)
- ・ On Presenting Word Class Information in Japanese Learners' Bilingual Dictionaries 『外国語教育フロンティア』第2号, pp.67-82. (2019年3月29日発行) (共著)
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・“A Comparative Study on the Syntactic Function of Persian and Japanese Adjectives and Language Learners' Errors” Presented at The Japan Association for Language Teaching (JALT) 2018, Shizuoka.
[その他の活動]
〈社会貢献活動〉
『中東からの生の声』(2019年2月～3月における5回にわたった中東の社会及び文化についての講義)

REZAI BAGHBIDI Hassan, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Middle Persian; Introduction to Iranian Linguistics

<Foreign language classes> Elementary Persian; Intermediate Persian; Advanced Persian

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Historical Linguistics; Indo-Iranian Linguistics

<Academic society memberships> Academy of Persian Language and Literature; International Association of Sanskrit Studies

[Research achievements]

<Papers> The Memorial of Zarēr Reconsidered

[トルコ語]

大澤 孝 (ŌSAWA Takashi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アジア言語社会動態論、アジア・アフリカ言語文化論序論、

〈共通教育担当科目〉 国際教養科目

〈学部教育担当科目〉 トルコ語 12a,b, トルコ語 IIa,b, トルコ語学概論 a,b, トルコ歴史講義 a,,b,トルコ文化演習 a,b.

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中央ユーラシアのテュルク系遊牧民の歴史と文化, 古代テュルク語碑文と遺跡のフィールド調査

〈所属学会〉 内陸アジア学会、西南アジア研究学会、北海道大学文学部東洋史談話会会員、国際 Signum 学会.

[研究業績]

〈論文〉

- ・Takashi Osawa, “An attempt at interpretation of the South-Yeniseian runic inscription in Khakassia (The third inscription on the Turan Mountain)”, A. I. Poselyanin (ed). Material, the International Scientific Conference <Peoples and Culture of Sayan-Alati and surrounding territory> for the honor of 85th years old since the birth of Orientalist, Archeologist, Historical Scientific Doctor Vitaliya Eppifanobicha Larichev, 2018, Abakan, pp. 58-63.

〈学会発表〉

- ・Takashi Osawa, “New discovery Old Turkic runic sources of the Ulaachuluut Mountain from the Central Mongolia-On the basis of the Mongol-Japanese International Excavation of the 2018”, International Scientific -Prakticheskaya Conference, Comprehensive-Praktice <Research of Turkic and Mongolian Languages>, October 18, 2018, North Eastern Fedral University, Yakutia.

〈研究報告〉

- ・山本克彦、L. イシツェレン、笹田朋孝、佐川正敏、大澤孝、正司哲朗、T.アムガラントクス、L. ムンフバヤル、N. ナムダク、北アジア調査研究報告会実行委員会（編）「2018年モンゴル国オルズ川流域の考古学調査」『第20回北アジア調査報告会』愛媛大学文学部、2月24日、pp.69-72.

〈研究助成〉

- ・日本学術振興会科学研究費 国際共同研究加速基金 B（代表研究者；平成30～33年度）.

〈調査活動〉

- ・モンゴル国の古代匈奴～突厥に関わる碑文・調査研究（2018年6月23～7月1日）
- ・モンゴル国の古代テュルク時代の碑文と遺跡調査（2018年8月2日～8月12日）
- ・ロシア連邦ハカス共和国の古代クルグズ族の碑文と遺跡調査（2018年9月21日～9月28日）
- ・ロシア連邦サハ共和国での古代テュルクの歴史文化の痕跡に関わる野外調査（2018年10月16日～23日）

[その他の活動]

- 〈学会活動〉トルコ共和国トルコ語研究誌3誌の査読委員会委員、ロシア連邦ハカス共和国言語歴史文学研究所発行の国際研究雑誌「サヤン-アルタイ学報」の査読委員会委員
- 〈社会貢献活動〉寝屋川カレッジ文化講座（講演）「チンギス・カンの落とし物—モンゴル高原の歴史文化遺産の調査と研究」（2018年11月23日）

藤家 洋昭 (HUZIE Hiroaki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アジア言語構造論、ウイグル語

〈共通教育担当科目〉特別外国語トルコ語

〈学部教育担当科目〉トルコ語3、トルコ語13、トルコ語III、トルコ語VIII、チュルク語学演習、トルコ語学演習、ウイグル語

[研究活動]

〈研究テーマ〉チュルク諸語の記述言語学的研究

〈所属学会〉言語処理学会、日本言語学会

[研究業績]

<論文>

- ・「ウイグル語における自動詞を形成する形式」『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』1041-1044, 2019年3月.
- ・「ウイグル語の心理述語」『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』1249-1252, 2019年3月.

<調査活動>

- ・チュルク諸語の記述言語学的フィールド調査

[その他の活動]

<管理運営> トルコ語学科目代表、トルコ語部会主任、設備・施設マネジメント委員

宮下 遼 (MIYASHITA Ryo) 准教授

[教育活動]

<研究科担当科目> アジア言語文化表象論

<共通教育担当科目> 学問への扉 (トルコ・イスラーム文化研究入門)

<学部教育担当科目> トルコ語1、トルコ語I、トルコ文学講義、トルコ語11、トルコ文学演習、世界文学・文化論

[研究活動]

<研究テーマ> トルコ文学(史)、トルコ文化史、近世オスマン帝国の物書く人々：文化的選良層の社会生活と心性についての文化史研究

<所属学会> 日本イスラム協会、世界文学会、日本中東学会、地中海学会、日本オリエント学会

研究課題

- ・近世オスマン帝国のもの書く人々の社会生活および美意識の変遷についての社会史研究
- ・現代トルコ文学における社会性についての書誌学的研究

[研究業績]

<著書>

(単著) 宮下遼, 『多元性の都市イスタンブル: 近世オスマン帝都の都市空間と詩人、庶民、異邦人』大阪大学出版会, 2018年2月28日.

<翻訳>

(単訳) イェクタ・コパン「ポルトベロ通り22番地」『すばる』2018年5月号, 集英社, pp. 226-249.

<論文>

(解説) “Mon nom est Mr. Watashi,” *Cahier de l’Herne Orhan Pamuk*, pp. 107-114, 2018.

<口頭発表>

(講演会) 宮下遼「文学の都市イスタンブルの盛衰：現代トルコ文学の淵源としての都市

像を読み解く」於ユヌス・エムレ文化センター（東京）, 2018年11月17日.
(研究会発表) 宮下遼 『タラートとフィトナトの恋』の語りと「国語」創出の試行」、「近現代トルコ語、ペルシア語文学の展開：韻文と散文、口語と文語、翻訳と創作（トルコ文学研究会 第7回定例研究会）」東京外国語大学本郷サテライト, 2018年8月19日於.
〈その他（創作、雑誌記事、新聞記事等）〉

(創作) 宮下遼 「青痣」『群像』2019年3月号, 2019, pp. 7-65.

〈研究助成〉

・科学研究費助成（若手研究(B)）(2017/4/1-2021/3/31)

〈その他の活動〉

・トルコ文芸文化研究会（主催、2015-）

DIRİK, Seval 特任講師

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学、方言学、方言文法、意味論、形態論、統語論

〈所属学会〉日本語学会、関西言語学会

[研究業績]

〈論文〉

・Dirik, Seval (2019) ÇANAKKALE İLİ AYVACIK YÖRESİ AĞIZLARINDA -mAk vā/var VE -(y)İK İŞARETLEYİCİLERİNİN BİLGİSELLİK ANLAMLARI. (EPISTEMIC SEMANTICS OF -mAk vā/var AND -(y)İK PREDICATE MARKERS IN THE DIALECT OF AYVACIK DISTRICT IN ÇANAKKALE) 外国語教育のフロンティア 2

〈口頭発表・講演・学会報告〉

・Dirik, Seval (2018) Çanakkale İli Ayvacık Yöresi Ağızlarında Bilgi Kipliği. (Epistemic Modality in the Dialect of Ayvacık District in Canakkale) The 2nd International Symposium of Silk Road Academic Studies. 20-22 September 2018. Nevşehir Hacı Bektaş Veli University, Turkey.

・Dirik, Seval (2019) 「トルコの地域方言における推量表現について一考察」(A Note on the Conjectural Expressions in a Dialect of Turkish)、2018年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会。2019年3月27日。京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター（羽田記念館）

〈調査活動〉

・トルコのチャナッカレ県アイヴァジュック町周辺で話される方言におけるモーダル形式に関する現地調査。

8月下旬～9月中旬

[スワヒリ語]

米田 信子 (YONEDA Nobuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アフリカ言語構造論、アフリカ言語構造論特別研究

〈学部教育担当科目〉 専攻語実習スワヒリ語 3、専攻語実習スワヒリ語 11、スワヒリ語文法演習 a, b、アフリカ言語学概説 a, b、アフリカ地域文化演習Ⅲa, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 バントゥ諸語の記述研究（複文、情報構造、とりたて表現、マイクロヴァリエーション）

〈所属学会〉 日本言語学会、日本アフリカ学会、日本音声学会、日本文化人類学会、関西言語学会、Association for Linguistic Typology

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*. Abe, Yuko. & Daisuke Shinagawa (eds.). Research Institute of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies. 2019. Mar. (担当章 : Matengo, Ganda).

〈論文〉

- "Functions of verb reduplication and verb doubling in Swahili." *The Journal of Asian and African Studies*, 96. 5-27. 2018. Sep. (Hannah Gibson 氏との共著)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- "Proto-Bantu subject and topic." International Conference on Reconstructing Proto-Bantu Grammar. University of Ghent. Ghent, *Belgium*. (2018年11月22日). Yukiko Morimoto 氏との共同発表. 招待
- 「フィールドワークから見るアフリカの魅力 - 未知の言語の調査とともに」 Handai-Asahi 中之島塾. 大阪大学中之島センター (2018年9月22日).
- "Multiple object constructions in Ganda." The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018年8月26日) Judith Nakayiza 氏との共同発表.
- "Cross-Bantu Variation in the Properties of Subjects." The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018年8月25日) Yukiko Morimoto との共同発表.
- "Degrees of Topicality in Bantu Subjects." The 7th International Conference on Bantu Languages. The River Club Mowbray. Cape Town, South Africa. (2018年7月10日) Yukiko Morimoto との共同発表.
- "Exclusive particles 'only' in Swahili - *tu* and *peke yake*." The 7th International Conference on Bantu Languages. The River Club Mowbray. Cape Town, South Africa. (2018年7月9日) Kumiko Miyazaki との共同発表.
- "Exclusive focus sensitive particles in Herero (Bantu R31)" The 20th International

Congress of Linguists. The Cape Town International Convention Centre. Cape Town, South Africa. (2018年7月5日).

- ・ 「スワヒリ語ザンジバル方言における移動動詞としての *pandisha* と *shusha*—季節風による『上下』の関係—」日本アフリカ学会第55回学術大会. 北海道大学. (2018年5月27日) 初田漠氏との共同発表.

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)「バントゥ諸語における従属節の形式と意味に関する比較研究」平成28~30年度 研究代表者
- ・ 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」(研究代表者:大阪大学 小森淳子)平成28~30年度 研究分担者
- ・ 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)「所有・所在概念の連続性とその言語化にはたらく諸条件に関する言語横断的比較対照研究」(研究代表者:愛媛大学 今泉志奈子)平成30~32年度 研究分担者

〈調査活動〉

- ・ 2019.2.1~2.10 タンザニア(バントゥ諸語のデータ収集)

[その他の活動]

〈管理運営〉 副理事(共創機構担当)、全学入試委員、21世紀懐徳堂運営委員

〈学会活動〉 国際バントゥ諸語学会アジア代表常任委員、日本言語学会評議員/常任委員、関西言語学会運営委員/編集委員、国立国語研究所共同研究員、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員/共同研究専門委員会外部審査委員

〈社会貢献活動〉 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、日本学術会議連携会員

竹村 景子 (TAKEMURA Keiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アフリカ言語社会構造論 I、アジア・アフリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉 アフリカの文化と社会を知る(国際教養1)、中東・アフリカ言語文化研究入門(専門基礎教育)

〈学部教育担当科目〉 スワヒリ語1、スワヒリ語14、アフリカ地域文化特別演習 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉 スワヒリ語諸方言の文法記述、スワヒリ現代文学研究、女性のライフヒストリー研究

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『ニューエクスプレスプラス スワヒリ語』2018年. 白水社. (単著)
〈論文〉
- ・“Utofauti wa Kilahaja wa Kiswahili - Kutokana na Data Zilizokusanywa Kisiwani Unguja -” 『スワヒリ&アフリカ研究』30: 67-80 (宮崎久美子氏との共著)
〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・“Dialectal Variation in Swahili - on the Lexicon and Grammar” 2018.7.10, Sintu 7 @ University of Cape Town, in Republic of South Africa (宮崎久美子氏<筆頭発表者>との共同発表)
- ・“Towards a New Approach to ‘Viswahili’ in Zanzibar” 2018.8.26, WOCAL 9 @ University of Mohammed V, in Morocco (宮崎久美子氏<筆頭発表者>との共同発表)
- ・「ザンジバルにおけるスワヒリ語諸変種の間接的関係を探る新たな試み」2018.10.13, 「スワヒリ語諸変種にみられる多様性とダイナミズムへのアプローチ」研究会@東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (宮崎久美子氏との共同発表)
〈研究助成〉
- ・科学研究費補助金 (基盤C: 28-30 研究代表者「ザンジバルにおけるスワヒリ語諸変種の記述研究—文法・語彙の差異に着目して—」)
- ・科学研究費補助金 (基盤S: 28-32 研究分担者「「アフリカ潜在力」と現代世界の困難の克服: 人類の未来を展望する総合的地域研究」)
〈調査活動〉
- ・2018年8月12日~23日: タンザニア連合共和国ザンジバル島にてスワヒリ語諸変種の記述調査
- ・2019年3月9日~23日: タンザニア連合共和国ザンジバル島およびダルエスサラームにてスワヒリ語諸変種の記述研究ならびに資料収集、「アフリカ潜在力」に関するインタビュー調査
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉
- ・外国語学部副学部長
〈学会活動〉
- ・大阪大学言語社会学会監事
〈社会貢献活動〉
- ・兵庫県立伊丹北高等学校講演会「世界中の人たちと友だちになろう！」講師 (講演タイトル: スワヒリ語と出会って33年を振り返る—アフリカ地域研究の面白さと魅力—, 日時: 2019年3月4日13時~15時)

小森 淳子 (KOMORI Junko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アフリカ言語構造論特別研究

〈共通教育担当科目〉 スワヒリ語初級

〈学部教育担当科目〉 スワヒリ語 2、スワヒリ語 15、スワヒリ語 I、西アフリカ諸語演習
(バンバラ語)、アフリカ言語学講義、アフリカ地域文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アフリカ言語学 (ニジェール・コンゴ語族の動詞形態論・統語論研究)

〈所属学会〉 日本アフリカ学会、日本語学会

[研究業績]

〈論文〉

小森淳子 (2019) 「バンバラ語の自他交替と自動詞の特徴について—「受動文」から考察する」、『スワヒリ&アフリカ研究』30号、pp.33-48、大阪大学大学院言語文化研究科スワヒリ語専攻 (2019年3月発行)

〈書評・論評・紹介〉

小森淳子 (2018) 「アフリカ研究の現場から：大阪大学外国語学部スワヒリ語専攻の研究と教育」、『アフリカ』vol.58、pp.28-31、2018年秋号、一般社団法人アフリカ協会

Komori, Junko (2019) “Kerewe (JE24),” in Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe (eds.) *Descriptive Materials of Morphosyntactic Microvariation in Bantu*, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, pp.394-417.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

「バンバラ語の動詞の「他動性」に関する考察 — 他動詞と自動詞を分けるもの」
(日本アフリカ学会第55回学術大会 2018.5.27 北海道大学)

〈研究助成〉

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究」(研究代表者、H28-30年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉 人権問題委員会全学委員、スワヒリ語部会主任／学科目代表

ISACK Zainabu Kassu, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Special Seminar in Swahili, Structures of African Languages IIa

<Foreign language classes> Seminar of Swahili Literature, Swahili 12, Swahili IIa, African Culture, Swahili 4, Swahili 5, Swahili 13.

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Applied Linguistics, Semantics, Sociolinguistics, Syntax, African Culture.

[Research achievements]

<Papers>

- ・ “Makuzi na Hatua za Maisha katika Utamaduni wa Kiswahili” in *Frontier of Foreign Language Education* 2018 (1) 105-118.
- ・ “Dhana na Dhima ya Familia na Unasaba katika Utamaduni wa Kiswahili” in *Frontier of Foreign Language Education* 2019 (2) 259-269.

【ヨーロッパ I 講座】

〔ロシア語〕

林田 理恵 (HAYASHIDA Rie) 教授

〔教育活動〕

〈研究科担当科目〉 広域対照言語論, 広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉 ロシア語中級

〈学部教育担当科目〉 ロシア語専攻語実習, ロシア語学講義, ロシア語専攻語演習, ロシア学入門

〔研究活動〕

〈研究テーマ〉 ロシア語状況意味論, ロシア語教育・学習理論

〈所属学会〉 JSSEES (Japanese Society for Slavic and East European Studies), 日本ロシア語教育研究会

〔研究業績〕

〈論文〉

- ・ 「新機軸をめざす高校ロシア語課程 — 文科省拠点事業ロシア語班・1年間の軌跡 —」『ロシア語教育研究』9号, 2018年10月.
- ・ 「高校と大学をつなぐとは — 公開講義@北海道札幌国際情報高校の記録より —」文部科学省平成30年度『グローバル化に対応した外国語教育推進事業』ロシア語班事業成果最終報告書, 2019年3月.
- ・ 「科研費プロジェクト「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」2018年度研究成果報告 — 学習者言語における従属複文分析 —」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 2018年度研究成果報告, <http://kyoiku-ru.org/teaching/corpus/>, 2019年3月.
- ・ 「「国際語としてのロシア語」開催にあたって」平成30年度大阪大学大学院言語文化研究科ロシア語部会主催国際合同会議開催成果報告書「国際語としてのロシア語— 国際統一基準による言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題—」, 2019年3月.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ Ju.S.マスコフ著「アспект論 (Очерки по аспектологии)」(全4章, 421 p.—林田理恵・金子百合子訳) ひつじ書房, 2018年9月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ プロジェクト報告「平成30年度文部科学省グローバル化に対応した外国語教育推進事業・

北海道札幌国際情報高等学校における高大接続事業総括」2018年度ロシア語教育研究集会，於：上智大学，2018年12月。

- ・「TPKI 実施をめぐる問題—CEFR・TPKI の日本における『文脈化』—」（菱川邦俊・林田理恵共同発表）平成30年度大阪大学大学院言語文化研究科ロシア語部会主催国際合同会議「国際語としてのロシア語— 国際統一基準による言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題—」，於：大阪大学箕面キャンパス，2019年2月。

〈研究助成〉

- ・文部科学省科学研究費補助金：「日本語母語学習者データに基づくロシア語学習者コーパス構築の基盤研究」2017年度～2019年度（基盤研究（C））
- ・受託研究：文部科学省平成30年度グローバル化に対応した外国語教育推進事業「社会に開かれたロシア語教育の確立：地域貢献のためのロシア語学習、カリキュラム・マネジメントと学習評価、高大接続」研究担当（2018年4月～2019年3月）
- ・平成30年度大阪大学大学院国際合同会議助成「国際語としてのロシア語— 国際統一基準による言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題—」（2019年2月）

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語社会専攻ロシア語部会代表（2018年4月～2019年3月），
全学教育推進機構企画開発部全部門委員，ハラスメント相談室全学相談員

〈学会活動〉日本ロシア語教育研究会会計監査（2017年12月～）

〈社会貢献活動〉

- ・グローバル化に対応した外国語教育推進事業（ロシア語）高大接続事業今年度計画案（北海道札幌国際情報高等学校）企画立案。
- ・北海道札幌国際情報高等学校公開講義「ことばと文化」講師（2018年11月）。
- ・平成30年度大阪大学大学院言語文化研究科ロシア語部会主催国際合同会議「国際語としてのロシア語— 国際統一基準による言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題—」（2019年2月）組織・運営総括責任。

上原 順一 (UEHARA Junichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論

〈共通教育担当科目〉ロシア語初級選択、ロシア語中級選択

〈学部教育担当科目〉ロシア語、ロシア学入門、ロシア語学演習、ロシア語学講義

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア語の語彙論、語形成論、学習者向け教材など

〈所属学会〉日本ロシア文学会、日本ロシア文学会関西支部、大阪大学言語社会学会、日本ロシア語教育研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「グラフと Cytoscape の第一歩」、『外国語教育のフロンティア 2』（大阪大学大学院言語文化研究科）, 2019 年 3 月.

〈書評・論評・紹介〉

- ・「ロシア語入力の実験的錯誤」、『サイバーメディアフォーラム No.19』（大阪大学サイバーメディアセンター）, 2019 年 2 月.
- ・「ロシア語専攻の今」、『咲耶 vol.29』, （大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会）, 2018 年 9 月.
- ・「大阪大学外国語学部移転について」、『アヴローラ 26 号』（大阪外大ロシア語同窓会）, 2018 年 4 月.

[その他の活動]

〈管理運営〉 部局情報セキュリティ委員会（外国語学部、言語文化研究科）、ODINS 部局担当（外国語学部）、コンテンツ管理委員会（言社・日日専攻）、ネットワーク管理委員会（言社・日日専攻）、情報化推進会議（外国語学部）、未来共生イノベーター博士課程プログラム（言語社会専攻から）

〈社会貢献活動〉

咲耶会（大阪外国語大学 大阪大学外国語学部 同窓会）幹事、大阪大学言語社会学会 理事

藤原 克美 (FUJIWARA Katsumi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会構造論 I

〈共通教育担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究入門

〈学部教育担当科目〉 専攻語実習（ロシア語 13）、ロシア語 VII、ロシア政治・経済講義 I、ロシア政治・経済演習 II

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ロシア経済論、ソビエト経済論

〈所属学会〉 比較経済体制学会、日本比較経営学会、ロシア・東欧学会、経済理論学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・“Consumption in the Soviet Union during the 1960s and 1970s: A Case Study of Daily Life”, *The Journal of Comparative Economic Studies*, No.13, 2018, pp.129-155.
 - ・「1930 年代チューリン百貨店のロシア人」『セーヴェル』、34 号、85-99 頁。
- 〈書評・論評・紹介〉
- “An Empirical and Historical Study of Socio-economic Stratification and Wealth Disparity in Russia” *The Journal of Comparative Economic Studies*, No.13, 2018, pp.99-101.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・“Russian Consumers and the State in the Globalized World – A Case Study of the Fashion and Apparel Industry –” EACES (European Association for Comparative Economic Studies), Warsaw School of Economics, September 7, 2018.
- ・“Russian Consumer Power under Sanctions” International Conference ‘Civil Society, Firms, and Government in Post-Transition and Emerging Economies’, Kyoto University, January 26, 2019.
- ・「満洲国における百貨店の役割」富山大学極東地域研究センターシンポジウム「北東アジアの鳴動：朝鮮半島，中露国境地域，蒙中露辺境」（共催：北東アジア学会）、富山大学、2019年1月27日。

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金（C）「不足のなかの「消費社会」：ソビエトにおける消費財市場の発展」（平成27年度～平成30年度）

[その他の活動]

〈管理運営〉国際交流委員会委員長、紀要委員会委員長（箕面）、学生交流推進WG（2019年1月～）

〈学会活動〉比較経済体制学会幹事（2015年11月～）、ロシア・東欧学会理事（2015年10月～）

〈社会貢献活動〉国際理解ゼミナール講師、関西ロシア語コンクール審査員

横井 幸子 (YOKOI Sachiko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論、広域対照言語論特別研究

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ロシア語、ロシア語学演習、教科教育法（ロシア語）

[研究活動]

〈研究テーマ〉ロシア語・第2言語教育、言語教育政策、教師教育

〈所属学会〉日本ロシア語教育研究会、日本ロシア文学会、アメリカ応用言語学学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・横井幸子 (2018). 「プロジェクト型授業に見られる「学び」の評価について：客観的評価とCAF分析」『平成29年度文部科学省外国語教育強化地域拠点事業成果最終報告書』61-66.

〈論文〉

- ・横井幸子 (2018). 「日本の高校のプロジェクト型授業における第2言語習得とその評価について：客観的評価 (ТРКИ) とCAF分析」『ロシア語教育研究』第9号, 89-99.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・横井幸子(2019年3月17日)日本における内容重視型のロシア語教育の実践：高校と大学の場合. 2019年度MHS研究大会公開学習会, 母語・継承語・バイリンガル教育(MHS)学会.
- ・永沼栄理子&横井幸子(2019年3月10日).地域貢献を明確に目的とした「社会に開かれた」ロシア語教育：東京都渋谷区における実践. 外国語教育シンポジウム, 日本外国語教育推進機構(JACTFL), 上智大学.
- ・遠藤雅公, 永沼栄理子, 依田幸子, 小田桐奈美, 高橋健一郎& 横井幸子 (2018年12月2日). 「社会に開かれた」ロシア語教育とは? 日本ロシア語教育研究会 年次集会, 上智大学.
- ・Yokoi, S. (2018年4月25日). Планирование урока с использованием неадаптированных текстов: разработка практических учебных заданий, развивающих мыслительную деятельность. Ассоциация преподавателей японского языка в Хабаровске/Японский центр в Хабаровске, ТоГУ, Хабаровск, Россия.
- ・Yokoi, S. (2018年4月26日) «Обратное планирование уроков» и способы оценки [The «Backward Design» and language assessment]. Ассоциация преподавателей японского языка в Хабаровске/Японский центр в Хабаровске, ТоГУ, Хабаровск, Россия.
- ・Yokoi, S. (2018, September). Learning to research through poster presentations. Invited lecture. Sapporo Intercultural and Technological High School, Hokkaido, Japan.
〈研究助成〉
- ・文部科学省平成30年度「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」2018年度.
- ・文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 「日本のロシア語教育のための内容重視型授業のデザイン:第2言語習得過程をふまえて」2017年度～2010年度.

[その他の活動]

〈学会活動〉ロシア語教育研究会代表(2017年12月～)

[ハンガリー語]

早稲田 みか (WASEDA Mika) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論 IIab

〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 1, 11, IIab, ハンガリー語学演習 I, ハンガリー語学講義 I

[研究活動]

〈研究テーマ〉ハンガリー語学

〈所属学会〉日本ウラル学会、国際ハンガリー学会、日本言語学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・コヴァーチ・レナータと共著『ハンガリー語の入門 改訂版』白水社、2019
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・Hogyan tanítsuk, hogy a tanárok szobája a helyes és a tanárok szobájuk a helytelen? 20. élőnyelvi konferencia, Károli Gáspár Református Egyetem, Budapest, 2018.8.30-31
- ・「ハンガリー語の語順」「ハンガリー語における定性表現」欧州学フォーラム 2018.9.22-23
神戸市立六甲道勤労市民センター

〈研究助成〉

- ・科学研究費「ハンガリー語動詞接頭辞の多義構造にみられる文法化と活性化」

[その他の活動]

〈学会活動〉日本ウラル学会理事

〈社会貢献活動〉関西ハンガリー友好協会理事、愛知県ハンガリー友好協会理事

岡本 真理 (OKAMOTO Mari) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説
〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 3, ハンガリー語 4, ハンガリー語 1 3, ハンガリー文化講義 I, ハンガリー語学演習 III, 特別外国語ハンガリー語

[研究活動]

〈研究テーマ〉ハンガリー語社会論（近代民族語運動および文学運動）

〈所属学会〉日本ウラル学会, 大阪大学言語社会学会, ハンガリー学会, 国際ハンガリー学会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・(単著) 翻訳『ヴォブレン風オムレツ コストラニ・デジェー短編集』未知谷, 7-171 ページ, 2018 年 4 月。
- ・(単著) 解説「コストラニ文学の普遍性—近代ハンガリーという特殊性の中で」『ヴォブレン風オムレツ コストラニ・デジェー短編集』未知谷, 173-190 ページ, 2018 年 4 月。
- ・(単著) A magyar mint főszak a japán felsőoktatásban. (日本の高等教育における主専攻科目としてのハンガリー語)『外国語教育のフロンティア 2』 2018 年 3 月末。
- 〈口頭発表・講演・学会報告〉
- ・(口頭発表)「短編作品『山の中の小さな湖』を通して見るコストラニ文学の魅力」東欧文学シンポジウム, 東京大学, 2017 年 6 月 8 日。
- ・(口頭発表)「作家コストラニ・デジェーと 20 世紀初頭ハンガリーの文学界」日本ウラル学会第 45 回大会, 大阪大学, 2017 年 6 月 30 日。

〈研究助成〉

科学研究費補助金基盤研究 (C) 課題番号 15K02413 「国家変容と国民形成運動に関する動態的研究：近代ハンガリーにおける「民衆」」(平成 27 年～30 年度)

[その他の活動]

〈管理運営〉

言語文化研究科：男女協働推進センター委員，教育改革推進会議委員

外国語学部：なんでも相談室室長，学生支援委員会委員

その他：箕面地区過半数代表（～2018 年 10 月）

〈学会活動〉日本ウラル学会幹事，国際ハンガリー学会理事

〈社会貢献活動〉科学研究費補助金審査委員，国際交流基金翻訳助成事業審査委員

鈴木 広和 (SUZUKI Hirokazu) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論ⅧA、ヨーロッパ言語社会動態論ⅧB

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ハンガリー語 12、ハンガリー語Ⅴa、ハンガリー語Ⅴb、ハンガリー研究入門Ⅰ、ハンガリー文化講義Ⅱa、ハンガリー文化講義Ⅱb、ハンガリー文化演習Ⅳa、ハンガリー文化演習Ⅳb、ハンガリー文化演習Ⅴa

[研究活動]

〈研究テーマ〉中世ハンガリー王国における歴史と歴史叙述

〈所属学会〉東欧史研究会、日本ウラル学会、ハンガリー学会、Nemzetkozi magyarságtudományi társaság (国際ハンガリー学会)、日本西洋史学会、史学会

[研究業績]

〈論文〉・ "Natio" in the Gesta Hungarorum of Simon of Keza, *Legal Values in Japan and Hungary*. Design Egg, 105-120.

[その他の活動]

〈学会活動〉日本ウラル学会理事

Renáta Kovács, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Hungarian as a foreign language and Hungarian everyday culture.

Theater-play writing workshop

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Second language acquisition; Acquisition of cognitive metaphors in second language; Use of authentic texts in second language teaching; Use of literature in second language teaching;

<Academic society memberships>

Uralic Society of Japan

[Research achievements]

New approaches on cognitive metaphor teaching, classification of errors in interlanguage concerning metaphor acquisition in second language learning.

<Books>

Waseda Mika & Kovács Renáta

Hangariigo no nyuumon: Kaiteiban

Hakusuisha 257 p.

ISBN-10: 456008811X

ISBN-13: 978-4560088111

Kovács Renáta, Walsch Mester Ágnes: Variációk újabb négy témára. Pécsi Tudományegyetem. Pécs.

ISBN: 978-963-429-202-9

<Papers>

Attitudes and Benefits: Japanese Students Learning Hungarian in a Literary Workshop. Frontier of Foreign Language education, 2. 2019, Osaka University. Osaka

<Oral Presentations>

Foreign Language Teaching by Means of Literature. Conference of Uralic Society of Japan, Osaka University, Osaka 30th June, 2018.

Metaphors and Metonymy: sources of creativity in second language classroom. ALAK International Conference, October 13th, 2018. Seoul

< Lectures>

La vida es una tómbola – nuestras metáforas cotidianas. La Librería. Melilla, Spain. 16th March, 2019.

[ドイツ語]

山元 孝郎(YAMAMOTO Atsuro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ドイツ語圏文化概論、ドイツ語圏文化講義

〈共通教育担当科目〉 ドイツ語中級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 18世紀・19世紀のドイツ文学

〈所属学会〉 日本独文学会

高田 珠樹 (TAKADA Tamaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ比較文化動態論(A)・(B)、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論
特別研究 A・B

〈学部教育担当科目〉ドイツ語 12, A・B、ドイツ語圏現代社会演習Ia・b、ドイツ語VIIa・
b(B)、ドイツ語圏現代社会演習IIIa・b(A)

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習 (ドイツ語)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ハイデガーの世界概念とスローターダイクの球体概念の比較研究

〈所属学会〉日本哲学会、関西哲学会

進藤 修一 (SHINDO Shuichi) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論 III A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論
特別研究 A/B、ヨーロッパ・アメリカ言語文化研究序説 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉ドイツ語中級・LL、ドイツ語 2、ドイツ語圏文化演習 V、ドイツ語
圏現代社会演習 IIIb

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ近現代史 (中央ヨーロッパ・ドイツ系中等学校の比較研究、移民社会
における学校)

〈所属学会〉日本西洋史学会、史学会、大阪大学言語社会学会、大阪大学ドイツ文学会

〈研究助成〉科学研究費補助金 (基板研究 (C)) 「中央ヨーロッパ・ドイツ系中等学校の
比較研究—国家・地域を越えたシステムの検討」

[その他の活動]

〈管理運営〉大阪大学副理事 (教育オフィス筆頭オフィス員)、大阪大学教育研究共創室員、
大阪大学キャリアセンター副センター長、大阪大学高等教育・入試開発研究センター高
大接続部門長、大阪大学広報戦略策定委員、大阪大学とカリフォルニア大学との学術交
流推進室運営委員会委員、大阪大学 TA 制度検討 WG 主査、大阪大学キャリア教育検討
WG 主査、全学入試委員会委員、大阪大学アーカイブズ大学史資料部門兼任教員、ドイツ
語部会主任、研究企画推進委員

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事

〈社会貢献活動〉大阪大学 SEEDS プログラム運営委員、同運営指導委員長、ひょうごグロ
ーバルリーダー育成推進懇話会委員、JST ジュニアドクター育成塾 (めばえ適塾) 運営委
員

中川 裕之 (NAKAGAWA Hiroyuki) 教授

<http://www.lang.osaka-u.ac.jp/~nkg/naka.htm>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究A・B, ヨーロッパ言語構造論ⅦA・B, 広域対照言語論ⅢA・B

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習

〈学部教育担当科目〉ドイツ語11(A), ドイツ語11(B), ドイツ語圏文化演習I a, ドイツ語圏文化演習I b, ドイツ語圏文化講義I a, ドイツ語圏専門文献演習I b, ドイツ語初級a・b(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ドイツ語コーパス言語学, 日独語対照研究, 語用論, 談話分析, 機能文法, スイス地域研究, 外国語教育

〈所属学会〉日本独文学会, ドイツ語教育部会, スイス文学会, スイス史研究会, 多言語社会研究会, 多言語化現象研究会

[研究業績]

〈編著書〉

- ・言語社会共同研究プロジェクト 2018『ドイツ語をめぐる言語社会研究6』, 大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻, 2019年3月

〈論文〉

- ・C. F. マイヤーの『ユルク・イエナツチュ』における「想像の共同体」—自由・独立・民主主義・郷土愛, 言語社会共同研究プロジェクト 2018『ドイツ語をめぐる言語社会研究6』, pp. 1-21, 2019年3月

〈翻訳〉

- ・イゾ・カマルティン「レト・ロマン語大辞典の有用性」, 言語社会共同研究プロジェクト 2018『ドイツ語をめぐる言語社会研究6』, pp. 49-57, 2019年3月

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科言語社会専攻図書委員会委員, 言語文化研究科言語社会専攻教員人事業績審査委員

黒谷 茂宏 (KOKUTANI Shigehiro) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉広域対照言語論ⅣA/B, ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説(リレー講義)

〈共通教育担当科目〉ドイツ語中級

〈学部教育担当科目〉ドイツ語圏専門文献演習Ⅱa/b, ドイツ語圏文化演習Ⅱa/b, ドイツ語Ⅵa/b, ドイツ語1(A), ドイツ語1(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉言語学, ドイツ語学, ドイツ語教育

〈所属学会〉 Internationale Vereinigung für Germanistik、Deutsche Gesellschaft für Kognitive Linguistik、日本フランス語学会

[研究業績]

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ Modifizierende Verben und ihre Grammatikalisierung. (53. Linguistisches Kolloquium, Odense, 24-27.09.2018).
- ・ Größenfaktor in der »Zeitlichkeit« und »Chronomodalität« auf der Gaußebene. (Internationale Konferenz »Modalität und Aspektualität/Temporalität aus kontrastiver und typologischer Sicht«, Gdańsk, 27-29.09.2018).

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 海外報告 (1) : 53. Linguistisches Kolloquium in Odense (言語社会共同研究プロジェクト 2018 : ドイツ語をめぐる言語社会研究 6、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻)。
- ・ 海外報告 (2) : Internationale Konferenz »Modalität und Aspektualität/Temporalität aus kontrastiver und typologischer Sicht« in Gdańsk (言語社会共同研究プロジェクト 2018 : ドイツ語をめぐる言語社会研究 6、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻)。

[その他の活動]

〈管理運営〉 学部入試委員、安全衛生委員

安田 麗 (YASUDA Rei) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 広域対照言語論V

〈共通教育担当科目〉 地域言語文化演習 (ドイツ語)

〈学部教育担当科目〉 ドイツ語圏文化演習, ドイツ語圏専門文献演習, ドイツ語VII, ドイツ語圏文化概論, ドイツ語初級

[研究活動]

〈研究テーマ〉 音声学, ドイツ語教育,

〈所属学会〉 日本音声学会, 日本独文学会, ドイツ語教育部会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「語末閉鎖子音の知覚 - ドイツ語母語話者を対象にした聴取実験の報告 - 」『音声言語の研究 12』 (大阪大学言語文化研究科), pp.81-91. (2018)

[その他の活動]

〈学会活動〉 日本音声学会音声学普及委員会委員

Rappe, Guido Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

1 Course on Anthropology <Graduate School classes>

2 Course on topics of German Society <General Education classes>

4 classes for beginners, 2 for 2nd year students <Foreign language classes>

[Academic activities]

Intercultural Ethics; Modern Phenomenology, Origin of Language<Research Fields and interests>

(German) JSPS-Club<Academic society memberships>

[Research achievements]

<Books>

‘KI und die Macht der Atmosphären’ (in press)<Papers>

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

Lecture on Origin of Language, JSPS-Club Kyoto-Conference

【ヨーロッパⅡ講座】

〔スウェーデン語〕

高橋 美恵子 (TAKAHASHI Mieko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論

〈学部教育担当科目〉 スウェーデン語実習、スウェーデン現代社会特別演習、北欧現代社会概説、北欧文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉 ワーク・ファミリー・バランスの日本・EU 比較研究、比較の視点からみたスウェーデンの家族・ライフスタイルの多様性とジェンダー

〈所属学会〉 日本社会学会、日本家族社会学会、関西社会学会、International Sociological Association、社会政策学会、日本人口学会

[研究業績]

〈論文〉

・高橋美恵子「スウェーデンにおける仕事と育児の両立支援施策の現状―整備された労働環境と育児休業制度」、『Business labor Trend』2018.10. 独立行政法人 労働政策研究・研修機構, pp.27-33, 2018年9月.

・高橋美恵子「スウェーデンにおける非典型時間帯就労とワーク・ライフ・バランス―子育て環境と医療従事者の実践に着目して」、『IDUN―北欧研究―』Vol.23, 大阪大学言語文化研究科言語社会専攻デンマーク語・スウェーデン語研究室, pp.209-224, 2019年3月.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・Mieko Takahashi “Familj och genus i Japan i jämförande perspektiv” ,Department of Asian, Middle Eastern and Turkish Studies, Stockholm University, 2018年9月10日.
- ・高橋美恵子「ワーク・ライフ・バランス研究の新たな地平—日瑞比較の視点から」STINT Workshop, Stockholm University, 2018年9月11日.
- ・高橋美恵子「IT 先進国スウェーデンにおける家族と子育て」シンポジウム「育児期親子のITとソーシャルメディア活用：日本、韓国、スウェーデンの国際比較」お茶の水女子大学, 2019年2月2日.

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金・基盤研究（B）一般「多様性社会のワーク・ファミリー・バランス—スウェーデン・オランダ・ドイツの実践」2016年度～2020年度（研究代表者）
- ・科学研究費補助金・基盤研究（B）一般「非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランスの国際比較研究」2017年度～2019年度（研究分担者）
- ・STINT:The Swedish Foundation for International Cooperation in Research and Higher Education. Sweden-Japan 150 Anniversary Grants. “Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: On Limits and Potentials of Area Studies in the 21st Century” 2018年度（研究分担者）

〈調査活動〉

- ・多様性社会のワーク・ファミリー・バランス研究—オランダ調査 2018年9月1日～8日
- ・非典型時間帯就労に着目したワーク・ライフ・バランス研究—スウェーデン調査 2018年9月7日～9日、14～19日(実施).

[その他の活動]

〈管理運営〉 計画評価オフィス員、大学経営推進室会議委員、言語文化研究科・言語社会専攻研究企画推進委員

〈学会活動〉

日本家族社会学会編集委員

〈社会貢献活動〉

- ・姫路市男女共同参画センターあいめっせステップ・アップ講座講師。「スウェーデンの暮らしから学ぶ自分らしい生き方」2018年5月25日.
- ・広島県市町職員海外派遣研修事前研修会講師。「スウェーデンにみる包摂型社会づくり」2018年9月28日.
- ・日本・スウェーデン外交関係樹立 150周年記念講演会モデレータ「スウェーデンの文化とライフスタイル—fika/フィーカで紡がれる時間」2018年12月15日.

古谷 大輔 (FURUYA Daisuke) 准教授

(個人) <http://gustav.air-nifty.com> (科研) <http://conglomerate.labos.ac>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ言語構造論、
ヨーロッパ言語社会動態論

〈共通教育担当科目〉 欧米の文化と社会を知る

〈学部教育担当科目〉 北欧史概説、スウェーデン史特別演習、デンマーク史特別演習、北
欧文化演習、スウェーデン語

[研究活動]

〈研究テーマ〉 北欧近世史、歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築、歴史的
ヨーロッパにおける複合政体の比較研究

〈所属学会〉 日本西洋史学会、バルト・スカンディナヴィア研究会、大阪大学言語社会学
会、スウェーデン歴史協会 (Svenska Historiska Föreningen)

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 古谷大輔、「君主政の狭間から見る近世的主権国家-スコーネ住民と「正しき統治」-」、『歴
史学研究』、976号、2018年10月、160-168頁
- ・ 古谷大輔、「鉄のカーテンを超えて-スコーネの「国替え」を巡るデンマークとスウェー
デンの研究史-」、『IDUN-北欧研究-』、vol.23、297-308頁

〈書評・論評・紹介〉

- ・ 古谷大輔、「近世ヨーロッパの国家」、『歴史と地理』716号、2018年8月、42-45頁

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 古谷大輔、「ジャコバン王国」への君主政の更新-スウェーデン君主政における共和主
義とジャコバンたち-」、バルト・スカンディナヴィア研究会、2018年5月12日、早稲田
大学
- ・ 古谷大輔、「君主政の狭間から見る近世的主権国家-スコーネ住民と「正しき統治」-」、
2018年度歴史学研究会大会合同部会シンポジウム「主権国家「再考」」、2018年5月、早
稲田大学
- ・ Daisuke FURUYA、「Förmedlarna som kopplade mellan Asien och Europa: De svenska
erfarenheterna i det tidigmoderna Japan」、"Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in
Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century" 講演、
2018年9月10日、ストックホルム大学
- ・ 古谷大輔、「日本における北欧史研究の回顧と展望」、"Japanese Studies in Sweden, Swedish
Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st
Century" 研究報告、2018年9月11日、ストックホルム大学
- ・ 古谷大輔、「アジアとヨーロッパを繋ぐ媒介者たち-近世日本におけるスウェーデンの経
験-」、"Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits
and possibilities of Area Studies in the 21st Century" 講演、2018年9月12日、ストックホル
ム大学

- ・ Daisuke FURUYA, “Swedish experience of “revolution” as a renewal of “monarchia mixta”、基盤 (B) 「ジャコバン主義の再検討: 「王のいる共和政」 の国際比較研究」 国際ワークショップ、2019年3月18日、中央ヨーロッパ大学
〈研究助成〉
- ・ 基盤研究 (A) 「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」、平成29～32年度科学研究費補助金、研究代表者
- ・ 基盤研究 (A) 「ヨーロッパ東部境界地域における他者概念の形成と空間的再構成」、平成27～30年度科学研究費補助金、研究分担者
- ・ 基盤研究 (B) 「ジャコバン主義の再検討: 「王のいる共和政」 の国際比較研究」、平成28～31年度科学研究費補助金、研究分担者
〈調査活動〉
- ・ スウェーデン王国ストックホルム大学講演・研究報告 (2018年9月8日～18日)
- ・ スウェーデン王国ルンド大学史料調査 (2019年3月4日～9日)
- ・ ハンガリー共和国中央ヨーロッパ大学研究報告 (2019年3月14日～20日)
- [その他の活動]
- 〈管理運営〉 大阪大学適塾記念センターオランダ学研究部門兼任教員、大阪大学先導的学際研究機構グローバルヒストリー研究部門部門員、大阪大学21世紀懐徳堂兼任教員、大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻研究企画推進委員会委員
- 〈学会活動〉 Svenska Historiska Foereningen Internationella redaktionen (スウェーデン歴史協会国際編集委員)、バルト・スカンディナヴィア研究会関西支部事務局、大阪大学言語社会学会理事、日本西洋史学会『西洋史学』編集幹事
- 〈社会貢献活動〉
- ・ 古谷大輔、「近代のヨーロッパをどのように学ぶか: 近代の北欧」、神奈川県高等学校教科研究会歴史分科会高大連携講座、2018年8月7日、神奈川県栄光学園高等学校
- ・ 古谷大輔、「「遠くて近き」 仲一東西ユーラシアを結んだ日本とスウェーデンの関係史」、阪大外国語学部×みのお市民活動センターマンスリー多文化サロン 2018年10月18日、みのお市民活動センター

當野 能之 (TOHNO Takayuki) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語構造論 V A、ヨーロッパ言語構造論 V B

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (スウェーデン語) I、特別外国語演習 (スウェーデン語) II

〈学部教育担当科目〉 スウェーデン語 2、スウェーデン語 3、スウェーデン語 12、スウェーデン語 I a、スウェーデン語 I b、スウェーデン語学特別演習 a、スウェーデン語学特別演習 b、教科教育法 (スウェーデン語) a、教科教育法 (スウェーデン語) b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 スウェーデン語文法、不変化詞動詞構文

〈所属学会〉 日本言語学会、関西言語学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 當野能之 (2019) 「基体動詞の反義語となるスウェーデン語の不変化詞動詞について」, IDUN－北欧研究－第 23 号, 17-28

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 當野能之 (2019) 「日本語スウェーデン語対照研究の可能性」, STINT workshop “Japanese Studies in Sweden, Swedish Studies in Japan: Collaborative research on limits and possibilities of Area Studies in the 21st Century”, ストックホルム大学, 2018 年 9 月 11 日
- ・ Shibata, Shiro & Takayuki Tohno (2019) “The ‘Double Object’ Verb-Particle Constructions”, Grammar in Focus, ルンド大学, 2019 年 2 月 8 日

〈研究助成〉

- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 「現代スウェーデン語基本不変化詞動詞リスト作成に関する基礎的研究」平成 30 年～平成 32 年 (研究代表者)
- ・ 科学研究費補助金 基盤 (C) 「微視的類型論によるパラレル・コーパスを利用したバルト海周辺諸語の不定人称文の研究」(研究代表者: 名古屋大学 佐久間 淳一) 平成 29 年～平成 31 年, (研究分担者)

[その他の活動]

〈管理運営〉 教務委員会委員

〈学会活動〉 関西言語学会編集委員 (2016 年 4 月～), ICLC (国際認知言語学会) 準備委員 (宿泊交通担当) (2018 年 1 月～)

〈社会貢献活動〉 「スウェーデンの文化とライフスタイル／フィーカで紡がれる時間」, 企画・運営・パネリスト, 大阪大学, 2018 年 12 月 15 日

Gunnel Bergström, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes>

Conversation courses: standard + advanced, 1 class each per semester (3d and 4th year)

Writing course, 1 class per semester (3d and 4th year)

Master course in conversation, 1 class per semester

<General Education classes>

Swedish major, 1st year, Swedish major, 2nd year, 2 classes each per semester

[Academic activities]

<Research Fields and interests>

Translation, interpretation, audio description, intercultural communication, stylistics, Swedish grammar, text analysis, narratology

[Research achievements]

<Papers>

- 1) Article in Frontier of Foreign Language Education, Vol 2, on Audio Description
- 2) Article in IDUN, Vol 23, on the reception of Pippi Longstocking in Sweden
- 3) Article (no payment) on the Maishima Sludge Center for the Swedish professional water magazine Cirkulation)

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

Conference on Swedish FIKA culture Dec 15th, 2018 – participation in panel discussion

[Other activities]

<Admin activities>

Administrating the Swedish TISUS test in Osaka (May and October 2018)

Organizing a Nordic Literature Reading, in November 2018

Organizing a poster exhibition in January 2019 (4th year students' essays)

<Academic society activities>

Participating in STINT workshops in Osaka in July, 2018, and in Stockholm in September, 2018

<Social activities>

“Semling” SemmelFIKA in January 2019

[デンマーク語]

新谷 俊裕 (SHINTANI Toshihiro) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A, B, ヨーロッパ言語構造論 IIIA, B, ヨーロッパ言語構造論 IVA

〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (デンマーク語) I, II

〈学部教育担当科目〉 ←デンマーク語 2, デンマーク語 3, デンマーク語 1 1, デンマーク語 Ia, b, デンマーク語特別演習 a, b, 教科教育法 (デンマーク語) a, b

[研究活動]

〈研究テーマ〉 デンマーク語文法研究 (主に副詞の心態詞的用法)

〈所属学会〉 日本言語学会, 北欧語学会 (コペンハーゲン)

[その他の活動]

〈管理運営〉 ヨーロッパII講座代表, デンマーク語部会主任, デンマーク語学科目代表, 外国語学部評価委員会委員長

田邊 欧 (TANABE Uta) 教授

<https://www.utatanabe.com>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論Ⅱ、ヨーロッパ言語構造論Ⅳ、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、世界文学・文化論

〈学部教育担当科目〉デンマーク語Ⅰ、デンマーク語Ⅱ、デンマーク語Ⅱa (B)、北欧文学概論、北欧文学特別演習Ⅰ、北欧文学特別演習Ⅱ

[研究活動]

〈研究テーマ〉近・現代北欧文学（ブリクセン研究、アンデルセン研究、現代北欧モダニズム文学）

〈所属学会〉日本比較文学学会、北ヨーロッパ学会、国際アンデルセン学会、エーディット・スーデルグラン学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 田辺欧「ブリクセン文学にみる娯楽性—『まぼろしの馬』(Spøgeleshestene: 1955) 小論—」、『IDUN-北欧研究』23号、pp. 171-184、(2019. 3. 30)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ 田辺欧「21世紀にカーアン・ブリクセンを読む・みる・感じる」、日本比較文学学会・関西支部例会 (2019. 1. 12)

[その他の活動]

〈管理運営〉ヨーロッパⅡ講座代表、デンマーク語部会主任、デンマーク語学科目代表、外国語学部評価委員会委員長、全学・評価委員会委員、全学・公開講座運営委員会委員

〈学会活動〉北ヨーロッパ学会・理事、日本比較文学学会・関西支部幹事

〈学内講演・講義活動〉

- ・ 異文化理解クラスター スタートアップミーティング「異文化交流がひらく未来 ～デンマークの演劇を事例に～」発題（大阪大学共創機構・社会学共創本部「異文化理解クラスター」主催）(2018. 8. 29)
- ・ 「デンマーク人演出家による人形劇『Paradis』上映会」における発題（大阪大学共創機構・社会学共創本部「異文化理解クラスター」主催）(2018. 12. 21)

〈社会貢献活動〉

- ・ 大阪大学共創機構・社会学共創本部「異文化理解クラスター」構成員
- ・ 神戸女学院大学外部評価委員

石黒 暢 (ISHIGURO Nobu) 准教授

<http://www.hs.ura.osaka-u.ac.jp/ishiguronobu/>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会構造論Ⅱ

〈共通教育担当科目〉欧米の文化と社会を知る（北欧事情概説）

〈学部教育担当科目〉デンマーク語 13, デンマーク語Ⅱ, デンマーク現代社会特別演習,
デンマーク文化講義, 北欧現代社会概説 b

[研究活動]

〈研究テーマ〉比較福祉国家論, 日本と北欧の高齢者介護論, 子ども家庭福祉論

〈所属学会〉日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 社会政策学会, 北ヨーロッパ学会,
関西社会福祉学会, 近畿地域福祉学会, 日本介護福祉学会, 同志社大学社会福祉学会,
International Sociological Association

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・『市場化のなかの北欧諸国と日本の介護—その変容と多様性—』（共編著）2018年12月10日, 大阪大学出版会, 斉藤弥生・石黒暢編, 執筆担当:「はじめに」(共著) pp. 1-14, 「第1章 「施設」と「在宅介護」の境界線—介護労働者の日常からみえるもの」(共著) pp. 17-35, 「第3章 日本とデンマークの介護労働環境—介護労働者のストレスとその背景」(単著) pp. 57-73, 「第8章 デンマークにおける高齢者介護の市場化—自由選択, 質の向上と効率化の追求」(監訳) pp. 251-292, 「あとがき」(共著) pp. 416-420.

〈論文〉

- ・ Hildegard Theobald, Marta Szebehely, Yayoi Saito & Nobu Ishiguro, “Marketisation Policies in Different Contexts: Consequences for Home-Care Workers in Germany, Japan and Sweden”, *International Journal of Social Welfare*, 27(3): 215-225, July 2017.
- ・ L’ era dei robot, fine dell’ empatia?, Nobu Ishiguro, *inGenere.it*, 2018年9月

〈書評・論評・紹介〉

- ・「書評 猿田正機著『トヨタ研究からみえてくる福祉国家スウェーデンの社会政策』」, 2019年3月, 石黒暢, 『社会政策』, 10(3) 143-146
- ・『手を出しすぎないケア』のあり方—デンマークの高齢者介護における自立支援」, 2019年3月, 『IDUN—北欧研究—』第23号, 大阪大学デンマーク語・スウェーデン語研究室.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「書評報告『トヨタ研究からみえてくる福祉国家スウェーデンの社会政策』(猿田正機著, ミネルヴァ書房, 2017年)』」, 第137回社会政策学会, 2018年9月15日, 於 北海学園大学.
- ・「高齢者介護における福祉用具給付—個別ニーズの視点から」, 日本介護福祉学会第26回秋季大会, 2018年9月2日, 於 桃山学院大学.
- ・ Makiko Morita, Nobu Ishiguro, Jeppe Agger Nielsen & Jon Aaen, “The nursing home of the future: Transformation from showroom of technology to homey environment”, XIX ISA World Congress of Sociology, Metro Toronto Convention Center (Canada), July 20th, 2018.

・『『普通の暮らし』を支えるためにーデンマークの高齢者介護のしくみ』, 平成 30 年度大阪大学公開講座「阪大発研究最前線」, 2018 年 11 月 22 日.

・「日本の介護におけるロボットの導入」, 大阪大学・デュッセルドルフ大学共同 介護研究ワークショップ, 2019 年 3 月 11 日.

〈研究助成〉

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.28-32「福祉ガバナンスと介護労働の変容に関する国際比較研究 (研究代表者: 石黒暢)」(研究代表者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.27-30 「ソーシャルワークの実践理論形成に関する実証的研究: 事例を通じた地域・国際比較研究 (研究代表者: 上野谷加代子)」(研究分担者)

・科学研究費補助金 基盤研究 (B) H.30-33 「持続可能な介護保障と制度「外」介護の展開に関する国際比較調査 (研究代表者: 斉藤弥生)」(研究分担者)

〈調査活動〉

・デンマークの高齢者介護における自立支援に関する調査 (デンマーク・グリーンランド出張), 2019 年 1 月 31 日~2 月 13 日

・ドイツの高齢者介護とガバナンスに関する調査 (ドイツ出張), 2019 年 3 月 9 日~17 日

[その他の活動]

〈管理運営〉 言語文化研究科言語社会専攻・外国語学部国際交流委員副委員長、言語文化研究科・紀要編集委員

〈学会活動〉 北ヨーロッパ学会副会長、関西社会福祉学会学会誌編集委員

〈社会貢献活動〉 大阪府福祉のまちづくり審議会委員、大阪府都市計画審議会委員、大阪府国土利用計画審議会委員、大阪府住宅まちづくり審議会委員、豊中市人権文化のまちづくりをすすめる協議会委員

PALUDAN MUELLER MARTIN, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Foreign language classes>

All levels of conversation + writing class.

<Research Fields and interests>

History and analysis of culture and literature

<Papers>

Article on Danish mentality, H.C. Andersen, and S. Kierkegaard in our department's biannual publication IDUN, which will be published March 2019.

[Other activities]

Assisting my 2. grade students to prepare their successful theatre performance last November: text and pronunciation.

<Admin activities>

Helping my students to apply for scholarships for studying in Denmark and writing letters of recommendation.

大辺 理恵 (OBE Rie) 特任講師

[教育活動]

〈学部教育担当科目〉 デンマーク語 IIb(B)、現代デンマーク語演習 b、北欧語学演習 Ib

[研究活動]

〈研究テーマ〉 デンマーク語学、デンマーク語教育、言語学

〈所属学会〉 日本言語学会、日本語用論学会、デンマーク北歐文献学学会、デンマーク言語学会、東ノルド諸語文献学学会

[研究業績]

〈論文〉

- Haberland, Hartmut & Rie Obe. 2019. "Danske dialogiske partikler i japansk oversættelse En sammenligning af danske dialogiske partikler og japanske interactive partikler" *IDUN—北歐研究*—23 号. 大阪大学デンマーク語・スウェーデン語研究室.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- Danske dialogiske partikler og japanske interaktive partikler: en sammenligning (デンマーク語の心態詞と日本語の助詞：比較) (2019年3月1日 デンマーク・ロスキレ大学のセミナー「Partikler i dansk, japansk og andre sprog (デンマーク語、日本語そしてその他の言語における小辞)」にて)

[その他の活動]

〈社会貢献活動〉 講演会：異文化理解クラスター デンマーク人演出家による人形劇（主催者：大阪大学社会学共創本部異文化理解クラスター）（2018年12月21日）

【ヨーロッパ・アメリカ I 講座】

[英語]

岡田 新(OKADA Shin) 教授

<http://www.eonet.ne.jp/~shinokadahome>

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 イギリス言語社会動態論 現代英米政治外交史特殊研究

〈共通教育担当科目〉 リスニング

〈学部教育担当科目〉 イギリス文化概論 イギリス文化特別演習 イギリス文化演習 英語1 (講読)

[研究活動]

〈研究テーマ〉 イギリス現代政治史 自由党の再生と衰退

〈所属学会〉 日本政治学会 大阪大学言語社会学会

[論文]

- ・ 「1918年総選挙二人区における自由党と労働党」英米研究第 43号 1-28頁

[その他の活動]

〈管理運営〉言語文化研究科 副研究科長（言語社会専攻 専攻長）

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会 代表理事

〈社会貢献活動〉

- ・ 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 事務局
- ・ JICA（日本国際協力機構）招聘研修 講師

貴志 雅之（KISHI Masayuki）教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研

究 B、アメリカ言語文化表象論 IIA、アメリカ言語文化表象論 IIB

〈学部教育担当科目〉 アメリカ文学・文化特別演習 IIa、アメリカ文学・文化特別演習 IIb、アメリカ文学・文化演習 IIa (A)、アメリカ文学・文化演習 IIb (A)、アメリカ文学・文化演習 IIa (B)、アメリカ文学・文化演習 IIb (B)、アメリカ文学・文化講義 a、アメリカ文学・文化講義 b、英語 1 3、英語 (integrated course)I（上級クラス）、英語 (integrated course)II（上級クラス）

[研究活動]

〈研究テーマ〉 アメリカ演劇の政治文化研究—ポストヒューマン・エコロジー、20-21 世紀アメリカ演劇の政治学研究—1900 年からポスト 9.11、ヘンリー・ジェイムズの劇作研究—小説と演劇のインターフェイス、大西洋を挟む演劇の地政学—オーガスト・ウィルソンの『20 世紀サイクル』における『骨の町』の表象論研究、アメリカ演劇における帝国主義・他者・ポストコロニアリズム、

〈所属学会〉 日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本アメリカ演劇学会、日本ウィリアム・フォークナー協会、日本マーク・トウェイン協会、The Eugene O'Neill Society（米国）、The American Theatre and Drama Society（米国）、Association for Theatre in Higher Education（米国）

[研究業績]

〈論文〉

- ・ 「覚醒のヴィジョン—August Wilson の「20 世紀サイクル」における「骨の町」／「骨の人々」」平成 31（2019）年 3 月 31 日発行、『EX ORIENTE』（大阪大学言語社会学会誌）第 26 号，pp. 49-70.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・ シンポジウム：「Edward Albee の詩学」（個人発表タイトル：「ポストヒューマン・エコ

ロギーに向けて—*Seascape* における種間遭遇」平成 30 (2018) 年 8 月 26 日, 日本アメリカ演劇学会第 8 回大会, 於: HOTEL ルブラ王山.

- ・招待発表:「覚醒のヴィジョン—August Wilson の「20 世紀サイクル」における「骨の町」／「骨の人々」」平成 30 (2018) 年 12 月 8 日, 日本英文学会関西支部第 13 回大会, 於: 神戸女学院.

[その他の活動]

[管理運営] 言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻入試委員会委員、

[学会活動] 日本アメリカ演劇学会会長、日本アメリカ文学会編集委員、日本アメリカ文学会関西支部評議員

渡邊 克昭 (WATANABE Katsuaki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究 A,B、アメリカ言語文化表象論 IA, IB、世界文学・文化論講義 (リレー講義)

〈共通教育担当科目〉英語(Reading)

〈学部教育担当科目〉アメリカ文学・文化特別演習 Ia, Ib、アメリカ文学・文化演習 Ia (A), Ib (A)、アメリカ文学・文化演習 Ia (B), Ib (B)、アメリカ文学・文化概論 a, b、英語 13(B)、世界文学・文化論講義 (リレー講義)

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・ 21 世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想的展開—物質としての生命
- ・ ドン・デリーロ、リチャード・パワーズ、ソール・ベロー、マーガレット・アトウッド研究
- ・ ポストモダン・アメリカ文学・文化研究、文学・文化批評理論、アメリカ映像文化表象論

〈所属学会〉日本アメリカ文学会、日本英文学会、アメリカ学会、日本ソール・ベロー協会、日本ヘミングウェイ協会、日本ウィリアム・フォークナー協会、アメリカ演劇学会、大阪大学言語社会学会、日本英文学会関西支部、日本マーク・トウェイン協会、阪大英文学会

[研究業績]

〈共著〉

- ・『揺れ動く<保守>—現代アメリカ文学と社会』(共著) 山口和彦、中谷崇編、春風社、(2018 年 9 月 13 日発行)、「囁き続ける水滴—ドン・デリーロの『ゼロ K』における「生命の保守」」(pp. 275-307.)

〈論文〉

- ・「ポストヒューマン・デザインの地平—ダン・ブラウンの『オリジン』における AI と「かぐわしき科学」のゆくえ」、『英米研究』第 42 号（大阪大学英米学会、2019 年 3 月 31 日発行、pp. 29-57.）

〈書評〉

- ・『アメリカ文学研究』第 55 号（日本アメリカ文学会、2019 年 3 月 31 日発行、p.113.）
短評、諏訪部浩一著『アメリカ小説を探して』（松柏社）

〈講演〉

- ・特別講演「呼び交わす巨匠たち—ベロー、ヘミングウェイ、デリーロにおける〈死〉のアポリア」、日本ソール・ベロー協会第 30 回大会、（2018 年 9 月 5 日、専修大学）

〈研究助成〉

- ・科研費[基盤研究 (C)]による研究：「21 世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想史的展開—物質としての生命」研究代表者、（2018 年 4 月～）

[その他の活動]

〈学会活動〉

- ・日本アメリカ文学会代議員、編集委員
- ・日本アメリカ文学会関西支部評議員
- ・日本英文学会関西支部評議員
- ・日本ソール・ベロー協会理事
- ・大阪大学言語社会学会理事・編集委員

〈管理運営〉

- ・ヨーロッパ・アメリカ I 講座代表
- ・超域イノベーション博士課程プログラム担当
- ・大阪大学外国語学部英語部会同窓会（EDU）常任幹事

大津 智彦 (OTSU Norihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、イギリス言語文化資源論

〈学部教育担当科目〉英語学特別演習、英語学演習、英語学 I、英語 1、英語 3

[研究活動]

〈研究テーマ〉英語史、特に統語法の史的变化に関する記述的研究

〈所属学会〉英語コーパス学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「初期近代英語期における「promise + 目的語 + to 不定詞」と「promise + 目的語 + that 節」の交替について」『英米研究』第 43 号（大阪大学 英米学会、2019 年 3 月）学術論文

[その他の活動]

〈管理運営〉大学院（言語社会専攻）・外国語学部教務委員

杉田 米行 (SUGITA Yoneyuki) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語社会構造論 I A・B、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A・B

〈共通教育担当科目〉実践英語

〈学部教育担当科目〉←アメリカ史概論 ab、アメリカ歴史・政経演習 Iab、アメリカ歴史・政経演習 IIab(A)、アメリカ歴史・政経特別演習 ab、アメリカ歴史・政経演習 IIab (B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉人工知能が社会に与える影響、日米医療保険史・医療政策史、日米外交・安全保障研究

〈所属学会〉日本国際政治学会、アメリカ学会、政治社会学会、Society for Historians of American Foreign Relations

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・杉田米行『Speed Reading テキスト』124p (Kindle 版, 2019)
 - ・Yoneyuki Sugita, *Japan's Shifting Status in the World and the Development of Japan's Health Insurance Systems* (Springer, 2019)247p.
 - ・Yoneyuki Sugita, Chapter 4 "China's Food Safety Problems and Establishment of Dual Economy: A Case of Vegetables," in Victor Teo & SungWon Yoon eds., *Illicit Industries and China's Global Shadow Economy* (Routledge, 2018), pp. 65-77.
 - ・Yoneyuki Sugita, Chapter 2 "The significance of the Senkaku/Diaoyu Issues for Japan's security policies," in Victor Teo & Haruko Satoh eds., *Japan's Island Troubles with China and Korea: Prospects and Challenges for Resolution* (Routledge, 2018), pp. 13-40.
 - ・杉田米行著、ディミトリー・ボリア写真『戦後日本の復興の記録 上下巻』（大学教育出版、2018年）144p, 144p.
 - ・杉田米行著「日本の国際的地位と医療保険制度の変遷-1920年代～1940年代初頭」杉田米行編著『アジア太平洋地域の政治・社会・国際関係：歴史的発展と今後の展望』（東京：明石書店、2018）29-46頁。
- 〈翻訳・翻訳書〉
- ・杉田米行編著『アジア太平洋地域の政治・社会・国際関係：歴史的発展と今後の展望』（東京：明石書店、2018）数章を翻訳。
- 〈書評・論評・紹介〉
- ・Thomas French, "Colorized, digitally enhanced photos of postwar Japan bring their subjects to life" *Japantoday.com*, 21 March (杉田米行著、ディミトリー・ボリア写真『戦後日本の復興の記

録 上下巻』の書評)

<https://japantoday.com/category/features/lifestyle/Colorized-digitally-enhanced-photos-of-postwar-Japan-bring-their-subjects-to-life>

[その他の活動]

〈管理運営〉言語社会専攻英語部会主任、マルチリンガル教育センター出講

〈学会活動〉政治社会学会理事、International Advisory Board member of *Faravid* (the yearbook of the Historical Association of Northern Finland), H-US-Japan Editor, H-Diplo Advisory Board member

畑田 美緒 (HATADA Mio) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉イギリス言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

〈学部教育担当科目〉イギリス文学・文化概論、イギリス文学・文化演習、イギリス文学・文化講義、イギリス文学・文化特別演習、

[研究活動]

〈研究テーマ〉英文学、19世紀のイギリス小説

〈所属学会〉日本英文学会、日本英文学会関西支部、ディケンズフェロウシップ日本支部

[その他の活動]

〈管理運営〉言社専攻英語部会長・紀要編集委員会委員長

中村 未樹 (NAKAMURA Miki) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、広域言語文化論

〈共通教育担当科目〉

〈学部教育担当科目〉英語1、英語11、イギリス文化講義、イギリス文化演習、イギリス文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉イギリス演劇

〈所属学会〉日本シェイクスピア協会、日本英文学会、日本英文学会関西支部、名古屋大学英文学会、関西シェイクスピア研究会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「捕囚、物語、ホーム—『間違いの喜劇』における外国人」 *Ex Oriente* 26, 1-20, 2019年3月
- ・「『ヴェローナの二紳士』におけるパッションの抑制と擁護」 『言語文化研究』 45, 103-123, 2019年3月
- ・「『リチャード二世』におけるパッションの政治学と歴史学」 『英米研究』 43, 73-91, 2019年3月

[その他の活動]

〈学会活動〉日本英文学会関西支部編集委員、日本英文学会関西支部会計監査委員、名古屋大学英文学会編集委員、日本シェイクスピア協会編集（査読）委員

〈管理運営〉国際交流委員会委員、文系海外研修委員

HOFMEYR Michael, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Modernist Poetry: T. S. Eliot, Modernist Poetry: Ezra Pound

<General Education classes> General Linguistics 1 to 4, Introduction to Political Philosophy 1 and 2

<Foreign language classes> Discussion and Debate 1 and 2

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Critical Thinking, Linguistics, Political Philosophy

<Academic society memberships> Japan Association for Language Teaching (JALT)

[Other activities]

<Admin activities> Entrance examination marking, judge at English presentation contests for Osaka University graduate schools of medicine and engineering, judge at English presentation contests for foreign language majors at Osaka University

self-assessment and materials recommendations

<Academic society memberships> Japan Association for Language Teaching (JALT), Japan Association of College English Teachers (JACET)

【ヨーロッパ・アメリカⅡ講座】

[フランス語]

川北（安生）恭子（**KAWAKITA-ANJO Yasuko**）教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語構造論Ⅷ、ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉フランス語 3、フランス語 1 5、フランス語学演習、フランス語教科教育法、フランス文化演習Ⅳ、兼修語学初級フランス語、

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス語連結詞、フランス語教育、

〈所属学会〉日本フランス語学会、日本フランス語フランス文学会、大阪市立大学フランス文学会、大阪大学フランス文学会、言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

・「語彙教育—フランス小学校の語彙習得方法—」『外国語教育のフロンティア』2号、

pp.271-285.

[その他の活動]

〈管理運営〉知的基盤総合センター兼任教員、総務委員会委員、講座代表、

〈学会活動〉日本フランス語フランス文学会語学教育委員会委員

高階 早苗 (TAKASHINA Sanae) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究

〈共通教育担当科目〉フランス語

〈学部教育担当科目〉フランス語、フランス研究入門、フランス文学演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉19世紀フランス文学における私的空間と公的空間

〈所属学会〉日本フランス語フランス文学会

[研究業績]

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会委員

岡田 友和 (OKADA Tomokazu) 講師

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語社会動態論IV、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究

〈学部教育担当科目〉フランス語 2、フランス語 14、フランス研究入門、フランス文化演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉フランス近現代史、フランス植民地帝国史

〈所属学会〉日仏歴史学会、日本西洋史学会、史学会、政治経済学・経済史学会

[その他の活動]

〈管理運営〉人権問題委員会委員、協定校コンタクト・パーソン（リール政治学院）

POLET Jean-Noël, Specially Appointed Associate Professor

<http://www.jeannoel@lang.osaka-u.ac.jp>

[Teaching activities]

<Foreign language classes> Courses on writing in French (A2 and B1 levels), course on business French, course on French society, course on French communication for beginners, course on French communication for the non-specialist

[Academic activities]

<Research Fields and interests> French social history, history of the port of Marseilles

[Research achievements]

<Books> Le Français à la carte, Asahi press; Quai numéro un pour le Français, Hakusuisha

<Papers> Découvrir le passé composé: la journée d'Isabelle, Frontier of foreign language education, Osaka University

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

<Research aids (Competitive Research Funds)>

[Other activities]

<Academic society activities> Examiner Delf-Dalf

[イタリア語]

菊池 正和 (KIKUCHI Masakazu) 准教授

[教育活動]

<研究科担当科目> ヨーロッパ言語文化表象論、現代超域文化論 (リレー講義)

<共通教育担当科目> 欧米の文化と社会を知る

<学部教育担当科目> イタリア語 2、イタリア語 12、イタリア言語文化概説 I、イタリア文化講義Ⅲ、イタリア文化特別演習 I、世界文学・文化論 (リレー講義)

[研究活動]

<研究テーマ> 近現代イタリア文学、イタリア演劇

<所属学会> イタリア学会、関西イタリア学研究会

[研究業績]

<共著>

- ・教科書、世界の言語シリーズ 13 イタリア語, Bertelli Giulio Antonio、菊池正和著、大阪大学出版会、ISBN 978-4872593389, 2019年3月31日 (共著)

<論文>

- ・「マリネッティの『連鎖的シンテジ』—秩序への回帰が意味するもの—」、『言語文化研究』第45号 (大阪大学大学院言語文化研究科、2019年3月31日)

<研究助成>

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C) 「未来派演劇における劇作法と舞台空間の研究」 (課題番号: 17K02617)

[その他の活動]

<管理運営> なんでも相談室室員

<学会活動> イタリア学会幹事・編集委員

<社会貢献活動> 公益財団法人日本イタリア会館理事、京都市立高倉小学校学校運営協議会委員

ベルテッリ ジュリオ アントニオ (BERTELLI Giulio Antonio) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 イタリア語、イタリア文化（イタリア史）関連

〈共通教育担当科目〉 イタリア語、イタリア文化

[研究活動]

〈研究テーマ〉 幕末・明治初期における日伊交流史

〈所属学会〉 European Association for Japanese Studies (EAJS) - ヨーロッパ日本研究協会

イタリア学会（評議員）

伊日研究学会 Associazione Italiana Studi Giapponesi (AISTUGIA)

明治維新史学会

イタリア近現代史研究会

[研究業績]

〈単著・編著書・共著〉

- ・教科書，世界の言語シリーズ 13 イタリア語， Bertelli Giulio Antonio、菊池正和著，大阪大学出版会， ISBN 978-4872593389, 2019年03月（共著）
- ・専門著書，幕末維新期の日本と世界 一外交経験と相互意識一，友田昌宏（編），吉川弘文館， I S B N, 978-4-642-03883-6, 2019年02月（共著）
- ・一般著書，...alla corte imperiale giapponese - Resoconto del viaggio della regina pirotegnata Giuseppe Garibaldi, 1872-1874, Giovanni Riccardi Candiani (a cura di), Edizioni Libro d'Oro, I S B N, 978-88-8262-280-0, 2018年09月（共著）
- ・一般著書，SETA - Il filo d'oro che unì il Piemonte al Giappone, Teresa Ciapparoni La Rocca (a cura di), Silvana Editoriale, I S B N, 9788836641215, 2018年09月（共著）
- ・一般著書，Riflessioni sul Giappone antico e moderno III, Paolo Villani et al., Aracne Editrice, ISBN 978882551465, 2018年07月（共著）

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・The Meiji Restoration through the eyes of a western woman, BERTELLI GIULIO ANTONIO, The West in Japanese Imagination / Japan in Western Imagination: 150 Years to the Meiji Restoration, 2018年12月, <https://iajsconference.blogspot.com/>, 会議報告/口頭発表
- ・IT-ALIENS in Meiji Japan: Italians Discovering Japanese Language in the Early Meiji Era, Bertelli Giulio Antonio, Italy and East Asia: Exchanges and Parallels - Oct.11,12,13, 2018 Wang Center, Stony Brook University, New York, U.S.(アメリカ合衆国), 2018年10月, 会議報告/口頭発表
- ・Italiani ai confini del mondo - Diplomatici, commercianti e ufficiali della Regia Marina in Giappone prima e dopo la restaurazione Meiji, Bertelli Giulio Antonio, SETA - Il filo d'oro

che uni' il Piemonte al Giappone - Castello di Racconigi, 15 settembre 2018, 2018 年 09 月,

会議報告/口頭発表

〈研究助成〉

・ JSPS 科研費、2016-2018 年度 (基盤研究 C) 研究課題 : 16K03011

〈調査活動〉

・ 2018 年 8 月 (イタリアにおける史料調査)

[その他の活動]

〈学会活動〉 イタリア学会評議員

〈社会貢献活動〉

・ 阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン「イタリア～美食の旅～」, 2019 年 3 月 21 日, 於 : みのお市民活動センター

・ SETA - Il filo d'oro che uni' il Piemonte al Giappone (展示会), 2018 年 09 月, 於 : イタリア共和国、トリノ県、ラッコネージ村 (ラッコネージ城), 開催期間 : 2018 年 9 月 14 日～11 月 20 日

[スペイン語]

大内 一 (OOUCHI Hajime) 教授

[教育活動]

〈外国語学部担当科目〉 スペイン語 14 (通年)、スペイン歴史・文化概論 a、スペイン歴史・文化講義 b、スペイン歴史・文化演習 Ia、スペイン歴史・文化演習 Ib、スペイン歴史・文化特別演習 a(A)、スペイン歴史・文化特別演習 b(A)、

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会動態論 VA、ヨーロッパ言語社会動態論 VB、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 A、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究 B

〈共通教育担当科目〉 大阪大学の歴史、知性への誘い

[研究活動]

〈研究テーマ〉 中世カスティーリャ王権論、カスティーリャ中世都市研究、アルフォンソ 10 世研究

〈所属学会〉 日本西洋史学会、西洋中世学会、スペイン史学会、日本イスパニヤ学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈翻訳・翻訳書〉

「レコンキスタの起源について」論文紹介 : A.ベスガ・マロキン著、「8 世紀のアストゥリアス王国」

[その他の活動]

〈管理運営〉 外国語学部長、大阪大学教育研究評議員、キャンパスライフ健康支援センター運営委員、大阪大学創立 90 周年・大阪外国語大学 100 周年記念事業記念募金実行委員、

全学教育推進機構運営協議会委員、国際医療センター運営委員、全学施設マネージメント委員

〈学会活動〉大阪大学言語社会学会理事、Intus-Legere Historia (Universidad Adolfo Ibañez) 海外編集委員、

〈社会貢献活動〉大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会 咲耶会名誉会長、生産技術振興協会『生産と技術』編集委員

長谷川 信弥 (HASEGAWA Shinya) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究 A、広域言語文化論 VB、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説

〈学部教育担当科目〉スペイン語 1、教科教育法(スペイン語)a,b、スペイン語学概論 a、カタロニア語 a,b、スペイン語学講義 a,b、スペイン語特別演習 a,b

[研究活動]

〈研究テーマ〉カタロニア語学、スペイン語学、ロマンス語学

〈所属学会〉日本イスマニヤ学会、日本ロマンス語学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「カタロニア語における音声規範の記述の変遷について」、平成 28 年～平成 30 年度科学研究費補助金研究成果報告書、pp.142-149、2019 年 03 月

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「文副詞 *seguramente* について」、関西スペイン語学研究会第 418 回例会、2018 年 10 月、口頭発表
- ・「カタロニア語における音声規範の記述の変遷について」、日本スペイン語学セミナー第 38 回大会、2018 年 08 月、口頭発表
- ・神奈川大学スペインウィーク 学術シンポジウム「スペイン 言語の多様性」、「バルセロナはバルセロナじゃない!? 外国語表記のむずかしさ」、2018 年 11 月、口頭発表

〈研究助成〉

- ・科学研究費補助金 基盤研究(C) (課題番号 16K02635) 分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉外国語学部入試委員会副委員長

〈学会活動〉日本イスマニヤ学会監査

〈社会貢献活動〉公益財団法人日本イタリア会館顧問

岡本 淳子 (OKAMOTO Junko) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉ヨーロッパ言語文化表象論

〈共通教育担当科目〉地域言語文化演習(スペイン語)

〈学部教育担当科目〉スペイン語 3、スペイン語 14、スペイン文学講義、スペイン文学演習、スペイン文学特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉スペイン演劇

〈所属学会〉大阪大学言語社会学会、日本イスパニヤ学会、日本演劇学会、日本アメリカ演劇学会、International Federation for Theatre Research

[研究業績]

〈論文〉

- ・「スペインの劇作家アルフォンソ・サストレと検閲—1950年代前半の作品を中心に」*Hispanica* 61号 (日本イスパニヤ学会、2018年6月) pp.185-208.
- ・「演劇上演に対するフランコ体制下の検閲—アントニオ・ブエロ・バリエホ作品の検閲報告書から読み解く—」『言語文化研究』45号 (大阪大学大学院言語文化研究科、2019年3月) pp.37-58.
- ・「スペイン人劇作家ファン・カルロス・ルビオが描くアメリカの悲劇—米墨の国境問題をテーマとした『アリゾナ』『EXORIENTE』Vol. 26 (大阪大学言語社会学会、2019年3月) pp.21-47.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・ミゲル・デ・セルバンテス「幸福なならず者」『セルバンテス全集第5巻 戯曲集』(水声社、2018年8月) pp. 407-481.
- ・ファン・カルロス・ルビオ『アリゾナーアメリカのミュージカル悲劇』*Estudios Hispánicos* 43号 (大阪大学外国語学部スペイン語部会、2019年3月) pp.29-56.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・”Migrating Audience as Strategies to Clear Censorship in Franco’s Spain – In the Case of Buero Vallejo and Sastre”, 2018年7月10日、International Federation for Theatre Research (於セルビア、ベオグラード大学)

〈研究助成〉科学研究費基盤研究(C) 課題番号 15K02173 「独裁政権下のスペイン演劇—検閲と戦った二人の劇作家の明暗—」(平成27~30年)

[その他の活動]

〈管理運営〉学生支援委員会副委員長、人権問題相談員

〈学会活動〉日本イスパニヤ学会理事

〈社会貢献活動〉

- ・放送大学講師「スペイン語とスペインの歴史文化」(放送大学大阪学習センター、2018年)

5月12～13日)

- ・大阪大学外国語学部授業開放ウィーク、スペイン文学講義に高校生1名受け入れ(2018年10月17日)

松本 健二 (MATSUMOTO Kenji) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語文化表象論、他

〈共通教育担当科目〉スペイン語初級、他

〈学部教育担当科目〉スペイン語13、他

[研究活動]

〈研究テーマ〉現代スペイン語文学、チリ・ポスト軍政期文学

〈所属学会〉日本イスパニヤ学会、日本ラテンアメリカ学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「トラウマ的記憶を詩にする困難—ラウル・スリータ『その消え失せた愛に寄せる歌』に関する考察—」(『Estudios Hispánicos』/2019年/43号/pp.57-80)

〈翻訳・翻訳書〉

- ・パブロ・ネルーダ『大いなる歌』(現代企画室/2018年/pp.1-566)

〈書評・論評・紹介〉

- ・「スペイン語圏文学」(2017年の年間動向回顧:『文藝年鑑2018』/2018年6月30日/新潮社/pp.84-86)

- ・「他者を排除することで成立してきた虚構(フェイク)を暴く～排外主義のトランプ政権とどう渡り合っていくか」(2018年の年間動向回顧:『図書新聞』海外文学・文化回顧2018年ラテンアメリカ/2018年12月22日/第3380号/p.7)

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「ラウル・スリータ『かの消えた愛へのカント』『チリの愛』の位置づけをめぐって」(口頭発表/東京スペイン語文学研究会/2018年11月17日東京大学駒場キャンパス)
- ・「編集について:どのように翻訳とスペイン語文学の拡散を推進するか」(ニューヨーク市立大学マリア・ルイサ・フィッシャー教授の対談者としてパネル参加/第3回日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議/2018年10月5日セルバンテスセンター東京)

〈研究助成〉

- ・科学研究費/基盤C/17K02618/チリのポスト軍政期文学の挑戦:スリータとエルティッツの文学に関する総合的研究(2017～2019年度)

〈調査活動〉

- ・上記科研の資料調査(サンティアゴ:2018年12月17～24日/サンティアゴ2019年3月11～19日)

[その他の活動]

〈管理運営〉 マルチリンガルセンター副センター長

中本 香 (NAKAMOTO Kaori) 准教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語社会構造論 IV、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説（リレー講義の1回分を担当）

〈学部教育担当科目〉 スペイン歴史文化概論、スペイン語3、スペイン語4、スペイン語13、スペイン歴史文化演習、スペイン歴史文化特別演習

[研究活動]

〈研究テーマ〉

- ・近世スペイン王政と政治共同体に関する研究

〈所属学会〉 日本イスパニヤ学会、日本西洋史学界、スペイン史学会

[研究業績]

〈論文〉

- ・「近世末期スペインにおける共同体の権利意識—革命のなかの革命—」、Estudios Hispánicos 43, 大阪大学外国語学部スペイン語部会、2019.

〈口頭発表・講演・学会報告〉

- ・「美を競うおんなたちと身分制社会—18世紀マドリッドで—」、大阪大学 21世紀懐徳堂 iSpot 講座、2019年3月26日.

〈研究助成〉

- ・基盤研究 A「歴史的ヨーロッパにおける主権概念の批判的再構築」、平成29～32年度科学研究費助成金（研究代表者：古谷大輔）、研究分担者

[その他の活動]

〈管理運営〉 なんでも相談室副室長、教務委員会委員、施設マネジメント委員会委員

GARCIA NARANJO, Josefa, Specially Appointed Associate Professor

[Teaching activities]

<Graduate School classes> Master Classes Special Seminary in Spanish, Language Didactics and Methodology, Osaka University, 2018-2019

<Foreign language classes> Speaking and Listening Classes in First and Second Year, Osaka University, 2018-2019

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Didactics of Spanish, Applied Linguistics, Literature applied to the Spanish Class, Lexicography

<Academic society memberships> Spanish Society for Applied Linguistics(AESLA); Confederación Académica Nipona, Española y Latinoamericana(CANELA); Spanish Linguistics of Kansai Circle(CLHK); TADESKA Association; ASELE(Asociación para la Enseñanza de Español como Lengua Extranjera)

[Research achievements]

<Papers> “Methodology and Analysis of Words in a Study on the Lexical Availability of Students of ELE of the International Spanish Center of the University of Malaga”(“Metodología y análisis de vocablos en un estudio sobre la disponibilidad léxica de alumnado de ELE del Centro Internacional de Español de la Universidad de Málaga”), *Lingua Americana*, 2019(in press). “Self-correction and fluency in the development of oral skills in the Spanish class for foreigners”, *Frontier*, 2019(“Autocorrección y fluidez en el desarrollo de las destrezas orales en la clase de español para extranjeros”). “Un estudio de disponibilidad léxica en Japón”, *Estudios Hispánicos*, 43, 2019.

<Fieldworks>Applied Linguistics, Lexicography, Didactics

[Other activities]

<Academic society activities>Creation and development of an app for learning Spanish, 2018-2019 (in process).

[ポルトガル語]

東 明彦 (AZUMA Akihiko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉アメリカ言語社会動態論 I

〈共通教育担当科目〉情報活用基礎

〈学部教育担当科目〉ポルトガル語文化演習 I、ポルトガル語 4(A)(B)、ポルトガル語 13(A)(B)

[研究活動]

〈研究テーマ〉ブラジルの奴隷制

〈所属学会〉日本ポルトガル・ブラジル学会 (AJELB)、日本ラテンアメリカ学会、日本イ
スパニヤ学会、大阪大学言語社会学会

[研究業績]

〈論文〉

・「ヘンリー・コスター『ブラジル旅行記』(1816年)に見る黒人奴隷制」『ブラジル研究』
第15号、2019年、pp. 5-16

[その他の活動]

〈管理運営〉学生生活委員会委員、学生支援委員会委員

平田 恵津子 (HIRATA Etsuko) 教授

[教育活動]

〈研究科担当科目〉 アメリカ言語文化表象論
〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 3(A)・(B)、ポルトガル語圏文学概論、ポルトガル語圏
文学演習 I、ポルトガル語圏文学演習 III、ポルトガル語圏文学演習 IV
[研究活動]
〈研究テーマ〉 ブラジルモデルニズモ文学、日系ブラジル文学
〈所属学会〉 日本ラテンアメリカ学会、日本ポルトガル・ブラジル学会
[研究業績]
〈論文〉 「文学に見るブラジルの姿 - 『マルチン・セレレ』 の場合 (2)」、『ブラジル研
究』 第 15 号、pp. 17-28、2019 年 3 月 31 日
[その他の活動]
〈管理運営〉 ポルトガル語部会主任 (～2018 年 10 月 31 日)、ポルトガル語専攻学科目代表
(～2018 年 10 月 31 日)、海外交流協定校コンタクトパーソン (サンパウロ大学)
〈学会活動〉 日本ポルトガル・ブラジル学会理事
〈社会貢献活動〉 i-spot 講座「世界の文学 part.2」講師、講演題目「ブラジル・モデルニズ
モ文学とサンパウロ」

坂東 照啓 (BANDO Teruhiro) 准教授

[教育活動]
〈研究科担当科目〉 ヨーロッパ言語構造論 IX A・B
〈共通教育担当科目〉 ポルトガル語初級 I・II
〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 V a・b, ポルトガル語圏語学概論 a・b, ポルトガル語圏
言語演習 II a・b, ポルトガル語圏言語特別演習 a・b

鳥居 玲奈 (TORII Rena) 准教授

[教育活動]
〈研究科担当科目〉 アメリカ言語構造論 IAB
〈共通教育担当科目〉 特別外国語演習 (ポルトガル語) II
〈学部教育担当科目〉 ポルトガル語 2、ポルトガル語 12(A)(B)、ポルトガル語圏言語演習
IIab、ポルトガル語圏言語演習 IVab
[研究活動]
〈研究テーマ〉 言語学、ポルトガル語学
〈所属学会〉 日本ポルトガル・ブラジル学会、大阪大学言語社会学会
[研究業績]
〈論文〉
・ AKITI DEZEM, Rogério & TORII, Rena (2019) 「Apontamentos sobre a redação dos
TCCs produzidos pelos alunos japoneses (日本人学生の卒業論文に関する覚書)」, 『外

国語教育のフロンティア』2, 大阪大学大学院言語文化研究科.

〈翻訳・翻訳書〉

- ・鳥居玲奈 (2019) 『ポルトガル語教育と社会言語学』第1章試訳, 『ブラジル研究』15, 大阪大学外国語学部ブラジル研究会.

[その他の活動]

〈管理運営〉

「なんでも相談室」室員、外国学図書館運営委員会委員、外国学図書館資料選定小委員会委員長、言語社会専攻及び日本語・日本文化専攻入試委員会委員、協定校コンタクト・パーソン (カンピーナス大学)

AKITI DEZEM Rogério Specially Appointed Associate Professor

<http://rdezem.lang.osaka-u.ac.jp/>

[Teaching activities]

Brazilian Culture and History; Brazilian Portuguese Language

[Academic activities]

<Research Fields and interests> Brazilian Social History, Japanese Immigration, Showa History, Photography

<Academic society memberships> Associacao Japonesa de Estudos Luso-Brasileiros (AJELB)

[Research achievements]

<Papers>

AKITI DEZEM, Rogério & AVANCINI, Atilio. “A fotografia de rua em duas cidades multifacetadas:Osaka e Sao Paulo”. *Studies in Language and Culture* 45, March 2019. Graduate School of Language and Culture, Osaka University, pp.143-160.

DEZEM, Rogério A.. “Uma tarde em Ipanema...” (teatro). *Revista de Estudos Brasileiros*, vol. 15. March 2019, Portuguese Dept., Osaka University.

<Report>

AKITI DEZEM, Rogério A. & TORII< Rena.. “Apontamentos sobre a redacao dos TCCs produzidos pelos alunos japoneses”. *Frontier of Foreign Language Education magazine*, Research Project Promotion Committee/ Graduate School of Language and Culture, Osaka University, March 2019.

<Oral Presentations, Lectures, Reports in conference>

“Sampa-Osaka I & II Photo project” (workshop). MIS (Museu da Imagem e do Som) Sao Paulo, Brazil. 2018 September 3rd.

“Naniwa, a city without a face...” (workshop & exhibition) MAFGA – Minoh Association For Global Awareness. Minoh, Osaka. 2018 October 13 th.

[Other activities]

<Photo Exhibitions>

Collective Art exhibition at AVA Art Festival – ENOCO- Osaka /Japan (May-June 2018)

“Um registro do nosso Brasil” exhibition at Brazilian Embassy in Tokyo/Japan (September 2018)

“ Looks of Perception” exhibition at AVA gallery in Helsinki/Finland (January 2019)